

# SQL Server2019 インストールと設定手順書

本書は、らくらくドキュメントサーチで使用する Microsoft SQL Server2019 Express のインストールと環境設定を行うための手順を記載しています。

なお、SQL Server は、Windows Server 2019 または Windows10/Windows11 のいずれかにインストールします。

本書は、SQL Server 2019 Express エディションを中心に記載していますが、SQL Server 2019 Standard エディションでも概ね同様です。

全体の作業時間は、SQL Server のインストールメディアのダウンロード時間にも寄りますが、概ね 2 時間弱を見込んでください。

## 目次

1. 設定内容 .....	2
2. SQL Server2019 Express のインストール .....	3
2.1 ダウンロード .....	3
2.2 インストール .....	6
3. TCP1433 ポートと UDP1433 を解放する .....	13
4. TCP/IP を有効にする .....	18
5. SQL Server Management Studio をインストールする .....	22
6. SQL Server の設定 .....	25
6.1 Windows 認証でログインできるか確認します。 .....	25
6.2 sa アカウントでログインできるか確認します。 .....	28
6.3 新しいログイン名の作成 .....	30
6.4 新しいデータベースの作成 .....	33
6.5 テーブルを作成する .....	37
6.6 データベースユーザを作成する .....	39
6.7 セキュリティ可能なリソースを設定する .....	41
6.8 データベースユーザに、sysadmin ロールを付与する .....	45
7. ユーザ管理情報テーブルにシステム管理者のユーザを登録する .....	46
8. テーブル仕様 .....	49
9. 添付資料 .....	50
9.1 検索キーデータテーブル作成用 SQL コマンド .....	50
9.2 利用者情報テーブル作成用 SQL コマンド .....	51

## 1. 設定内容

SQL Server の設定内容を、以下まとめて記す。

次項以降、この設定を行うための SQL Server2016 のインストール手順、ならびに設定の詳細手順について記す。

設定項目	設定値(案)
インスタンス名	SQLEXPRESS
リモート接続用ポート	TCP:1433
	UDP:1434
認証モード	混合認証
sa アカウントのパスワード	sa!admin
DB 接続時のログイン ID	docsearch
パスワード	docsearch!admin
データベース名	docsearchsqldb
データベースの場所	D:¥DocSearchdb
初期値の容量[MB]	256MB
増分値[MB]	64MB 単位で無制限
検索キーデータテーブル	tbl_DocRegdb
利用者情報管理テーブル	tbl_UserAccount

## 2. SQL Server 2019 Express のインストール

すでに SQL Server 2019 Express がインストールされている場合は、ここはスキップして「3.TCP1433 ポートと UDP1434 を解放する」へ進みます。

### 2.1 ダウンロード

Microsoft の下記のダウンロードサイトを開きます

<https://www.microsoft.com/ja-jp/sql-server/sql-server-downloads>



画面を下方にスクロールして、Express のダウンロードボタンを表示します。



Express の下の「今すぐダウンロード」をクリックすると、ダウンロードフォルダに SQL2019-SSEI-Expr.exe というインストール用プログラムがダウンロードされます。

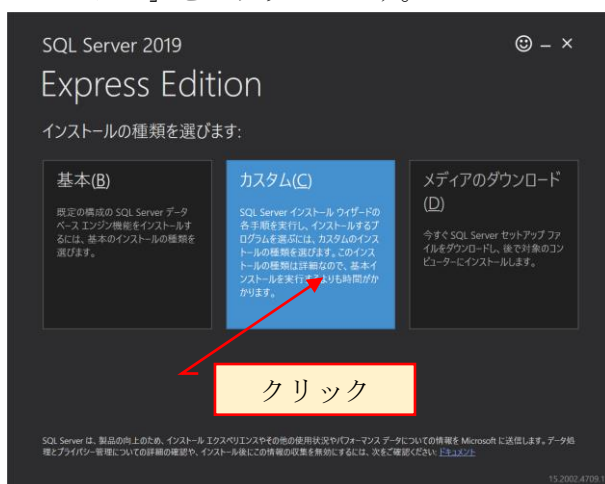
ダウンロードフォルダの SQL2019-SSEI-Expr.exe を実行するか、または、画面左下に表示されている SQL2019-SSEI-Expr をクリックします。

ユーザアカウント制御の警告メッセージ「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示されるので「はい」を応答します。

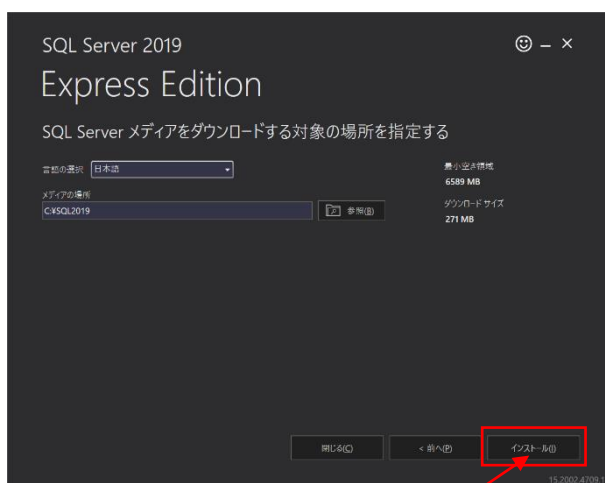
下記の画面が表示されます。



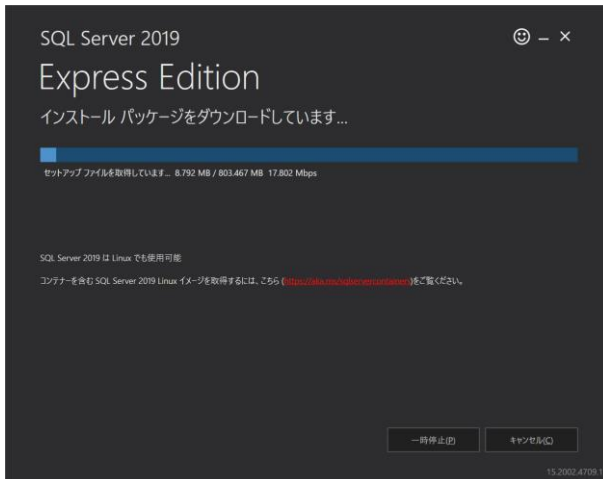
「カスタム」をクリックします。



SQL Server インストールメディアのダウンロード先は標準とし、変更せずに「インストール」をクリックします。



「インストールパッケージをダウンロードしています」と表示されます。



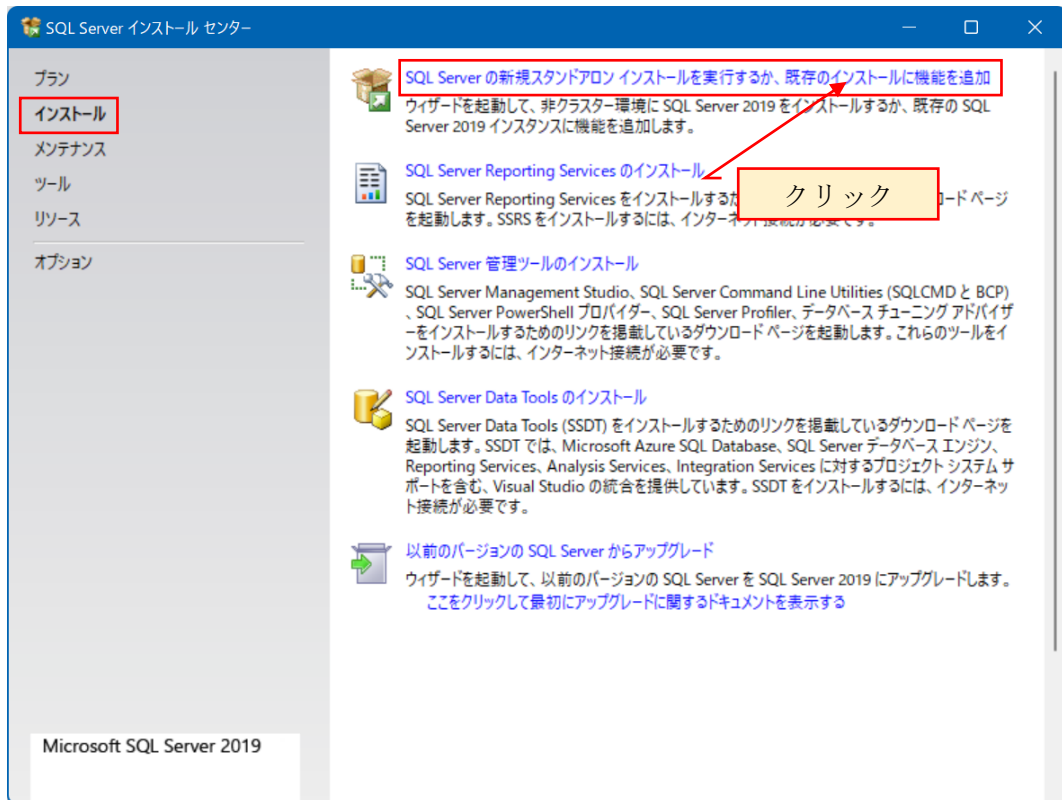
インストールパッケージのダウンロードが完了すると、自動的に下記の SQL Server インストールセンターが表示されます。



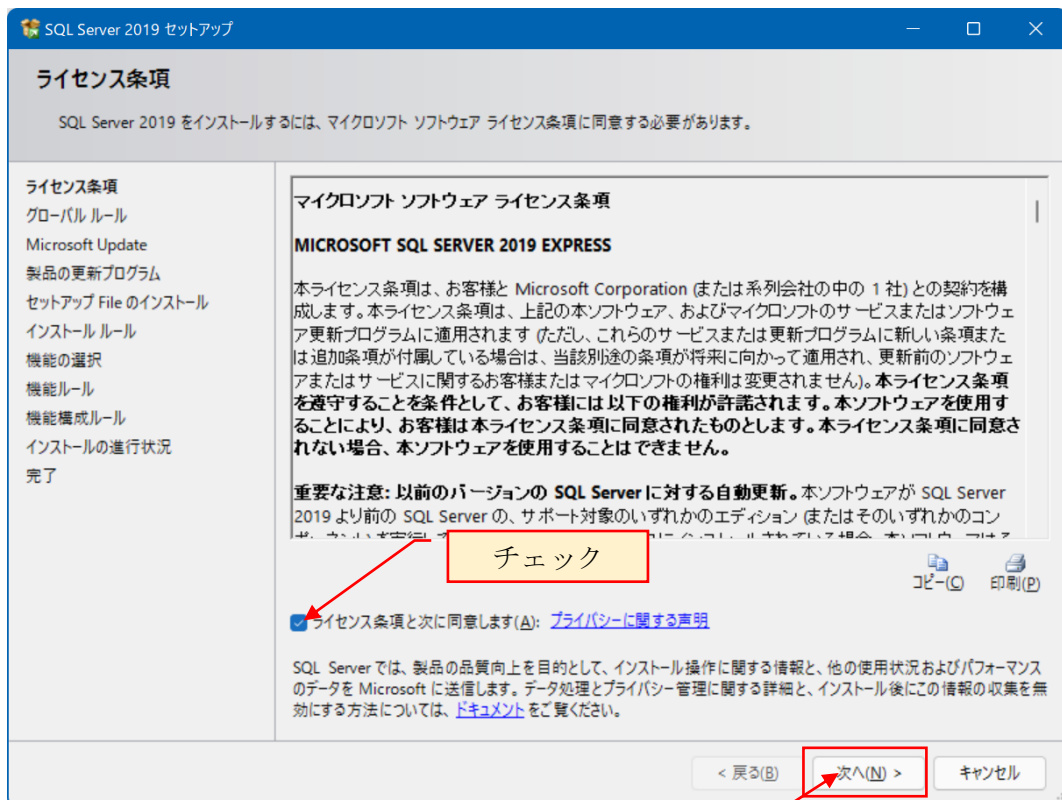
上記は、ダウンロードフォルダ内の

## 2.2 インストール

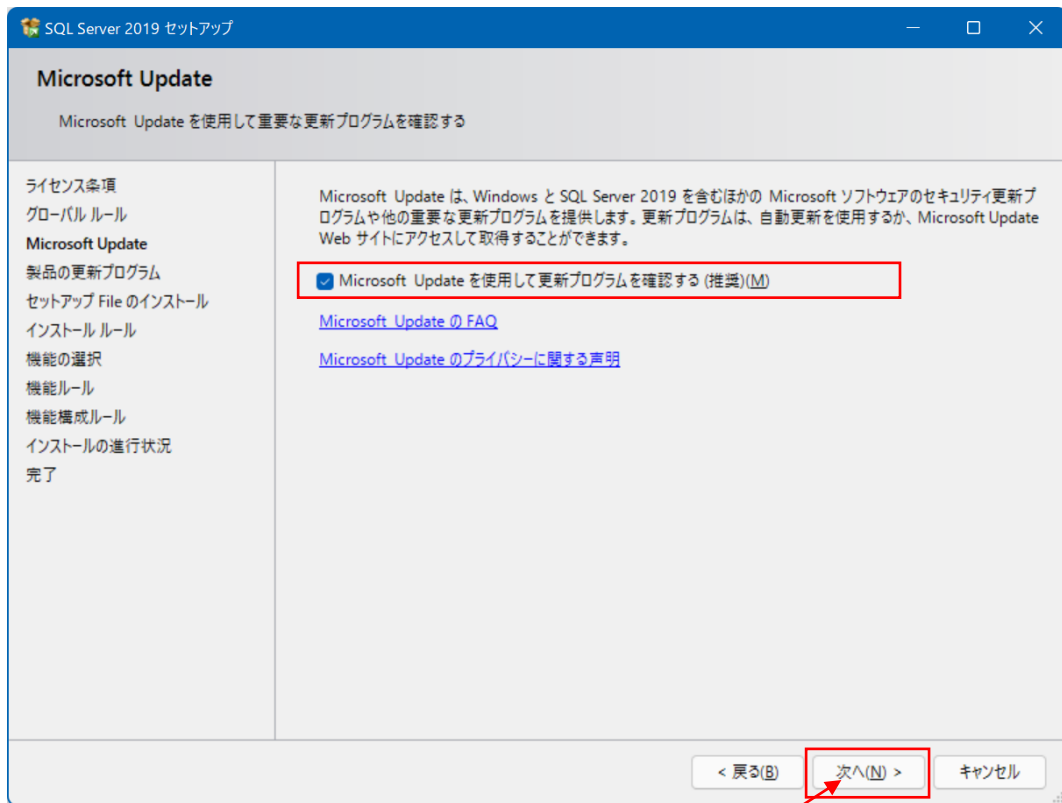
※下記画面の内容は、SQL Server のバージョンによって異なる場合があります。



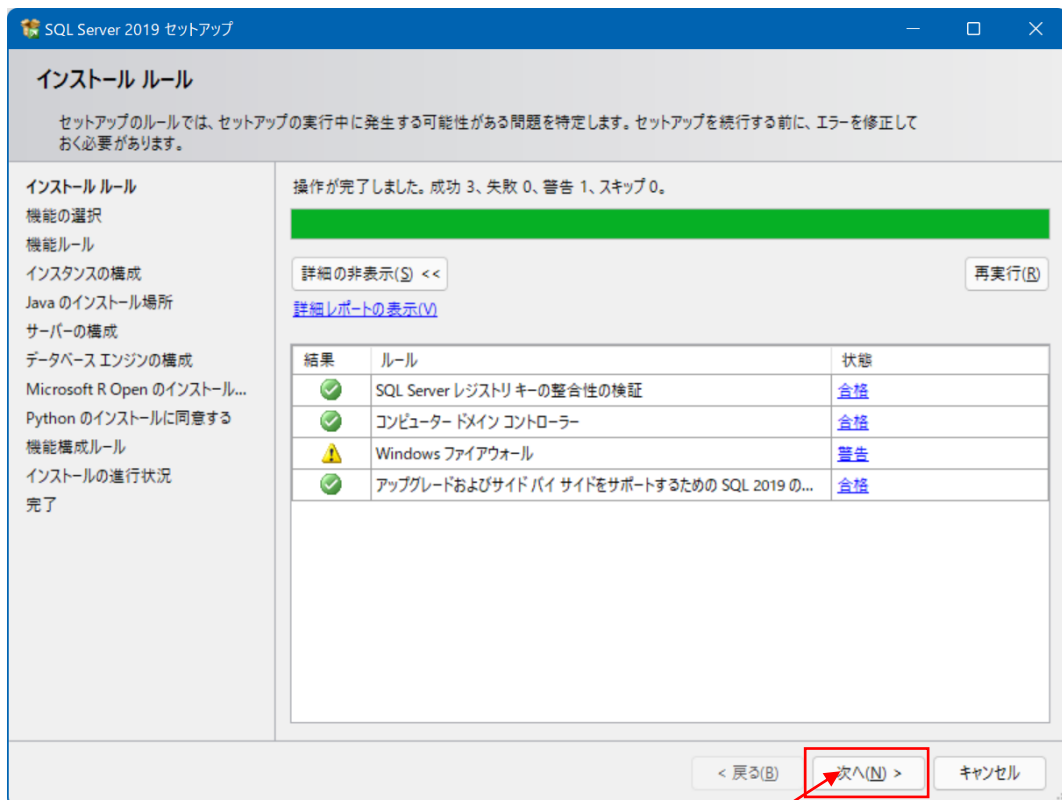
下記のライセンス条項に同意するにチェックを入れて「次へ」をクリックします。



下記の更新プログラムを確認するにチェックを入れて「次へ」をクリックします。

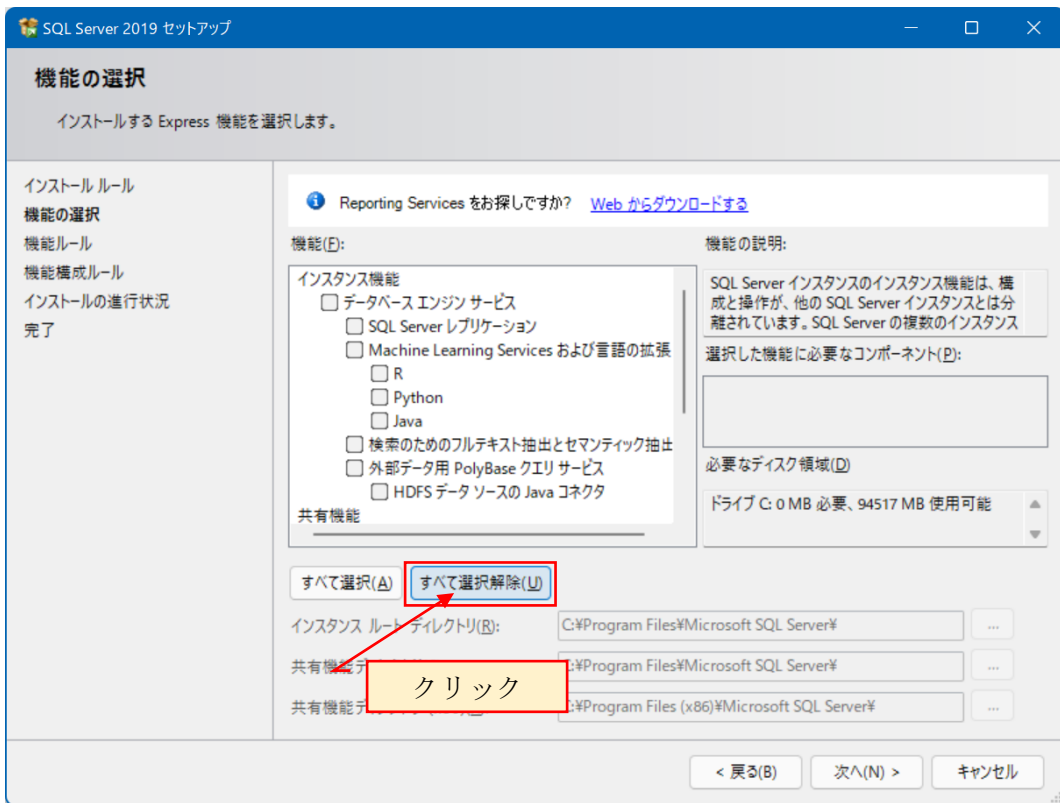


クリック

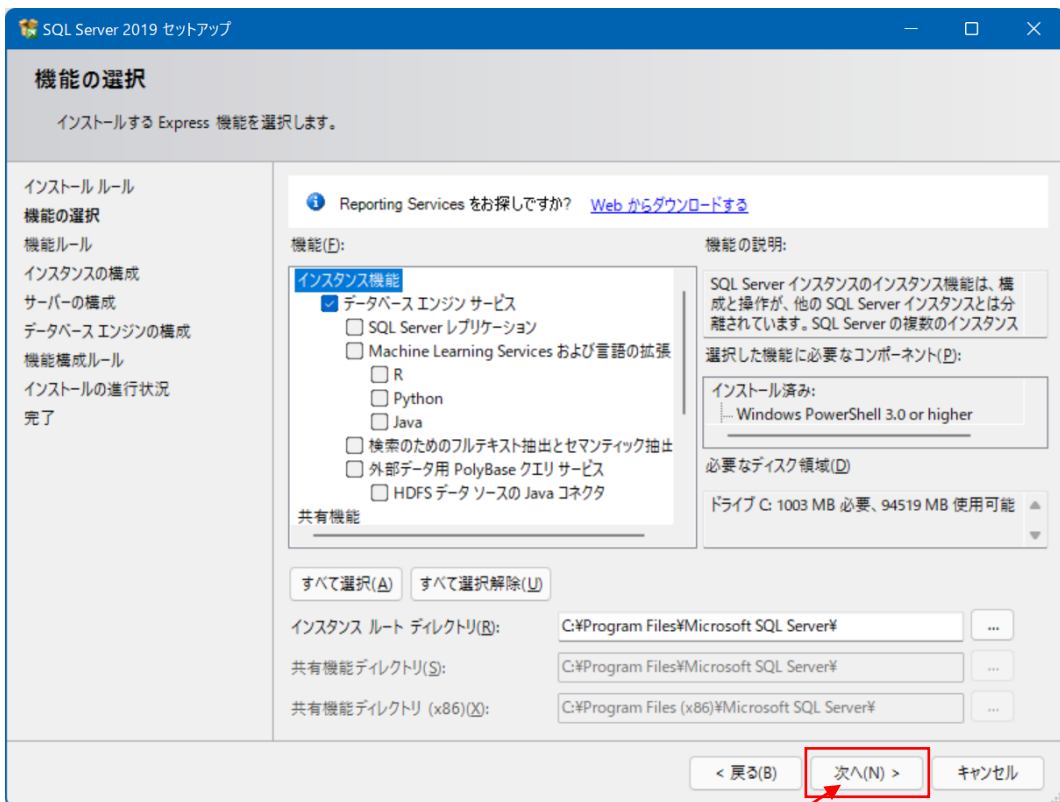


クリック

機能の選択で、「すべて選択解除」をクリックします。

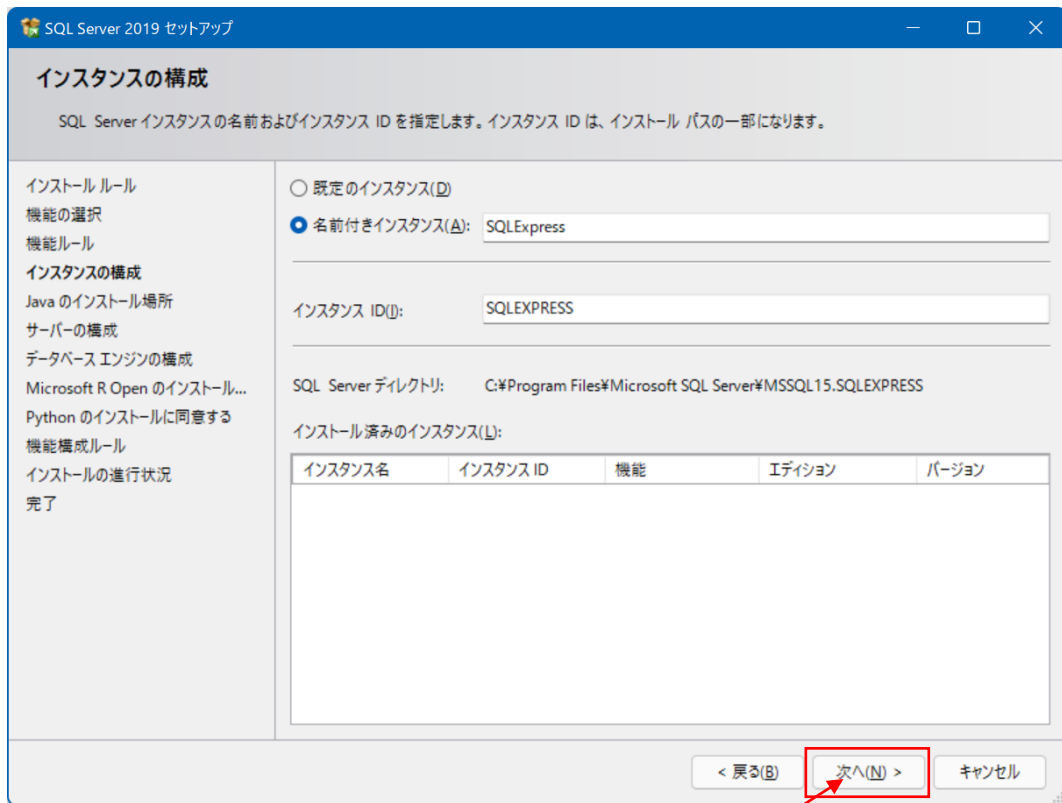


「データベースエンジンサービス」のみチェックを入れます。

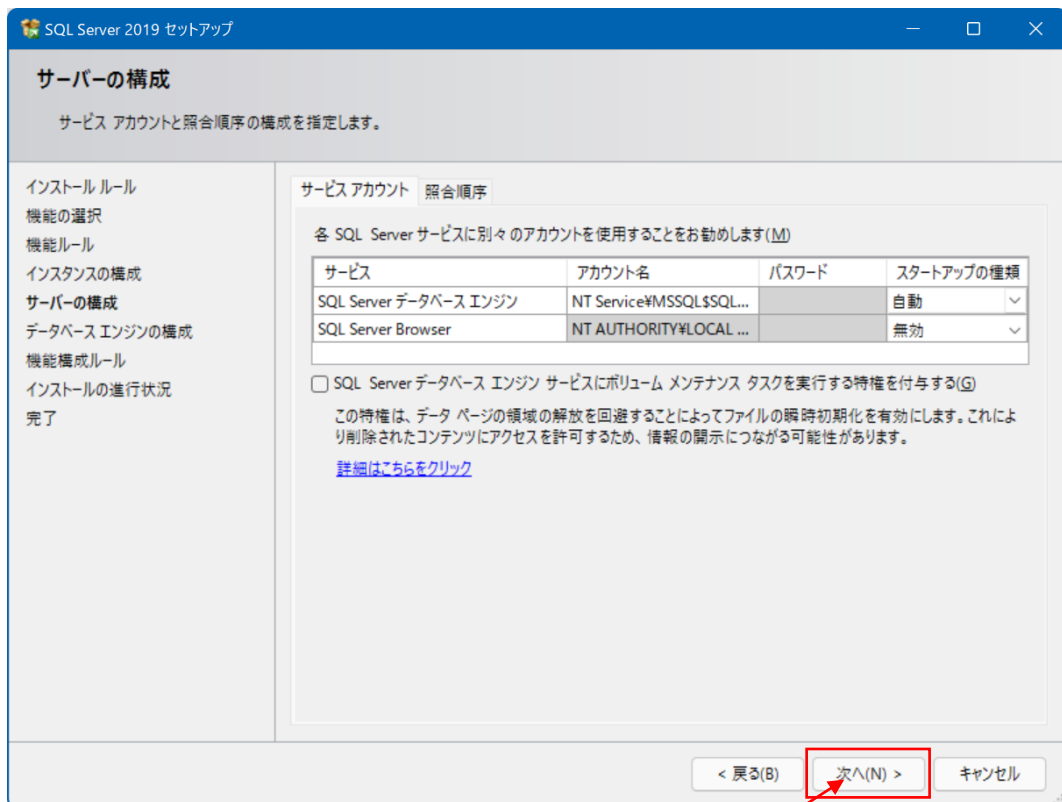




インスタンス名「SQLEXPRESS」は変更しないでください。



クリック



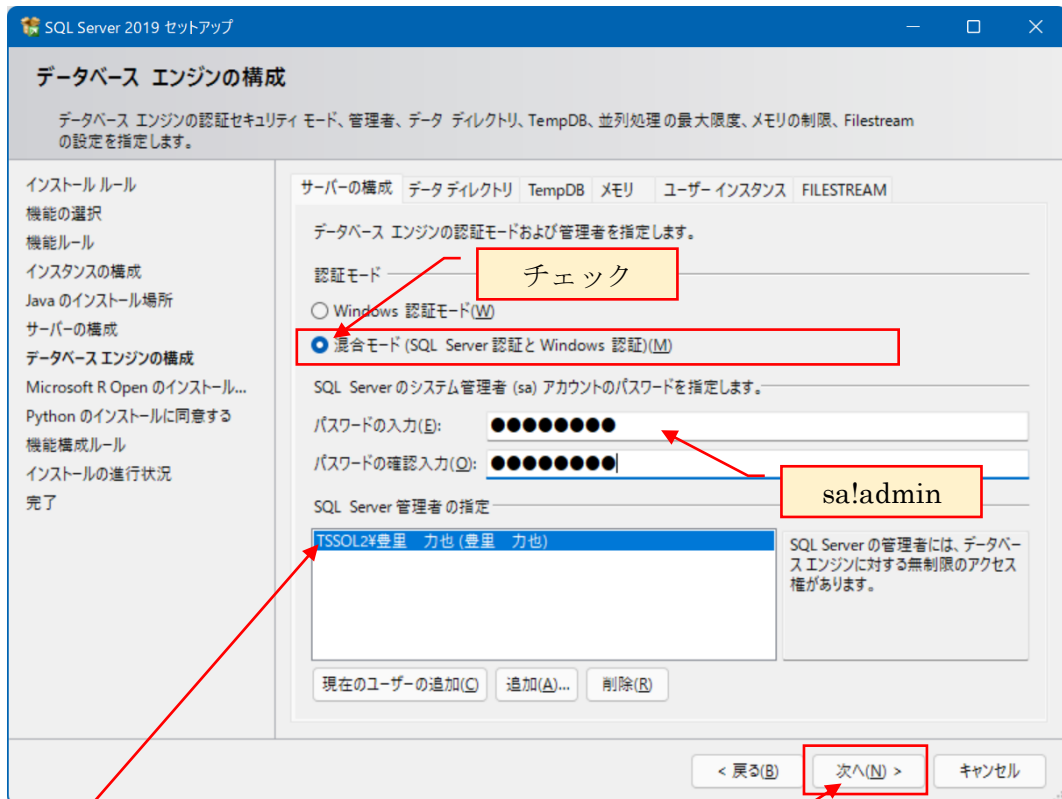
クリック

下記の「データベースエンジン」の構成画面で、混合モードを選択し、sa アカウントのパスワードを入力します。

SQL Server の sa アカウントは任意に設定できますが、ここでは以下のパスワードを設定することにします。

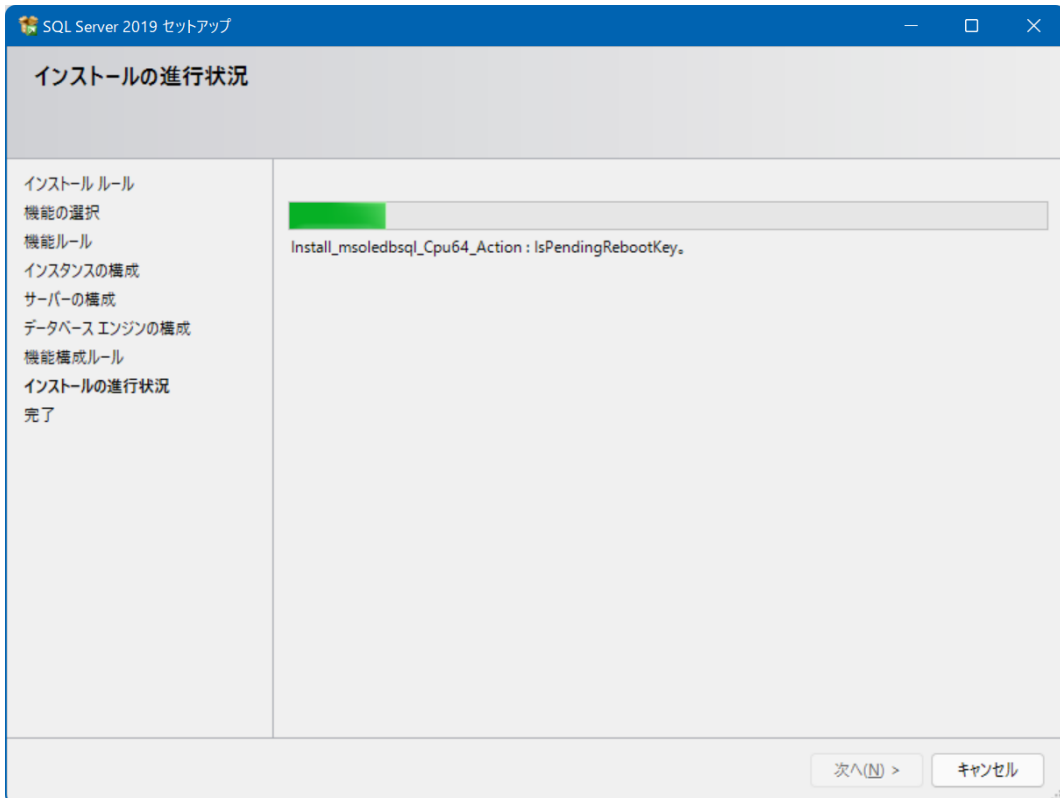
sa アカウントのパスワード : sa!admin

パスワードの確認入力も同じパスワードを入力します。

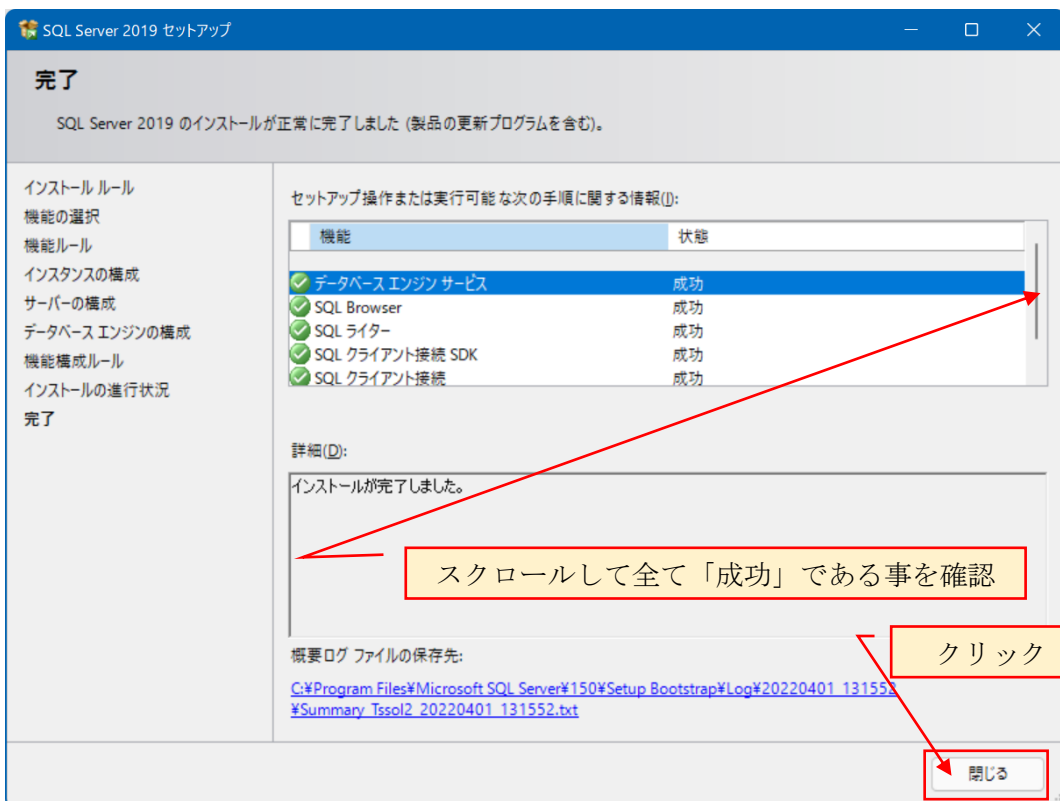
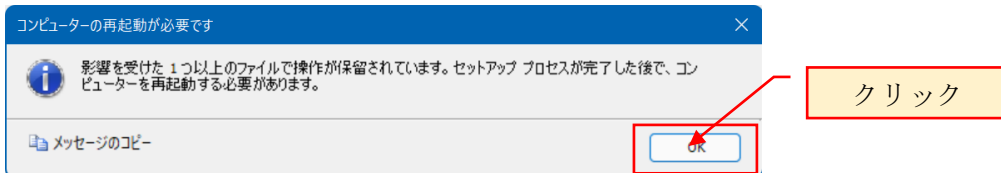


P C の環境によって表示は異なります

クリック



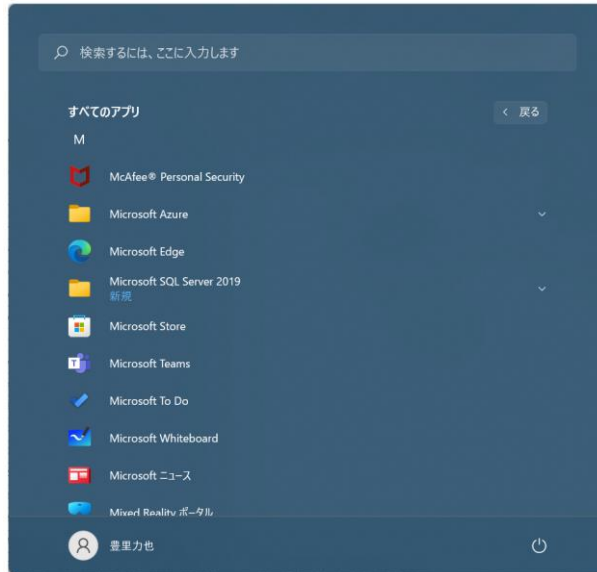
下記のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。



インストールを完了するため、再起動します。

SQL Server がインストールされると、スタートメニューに表示されます。

スタートメニューのすべてのアプリから、M から始まるアプリで、Microsoft SQL Server 2019 が表示されているかを確認します。



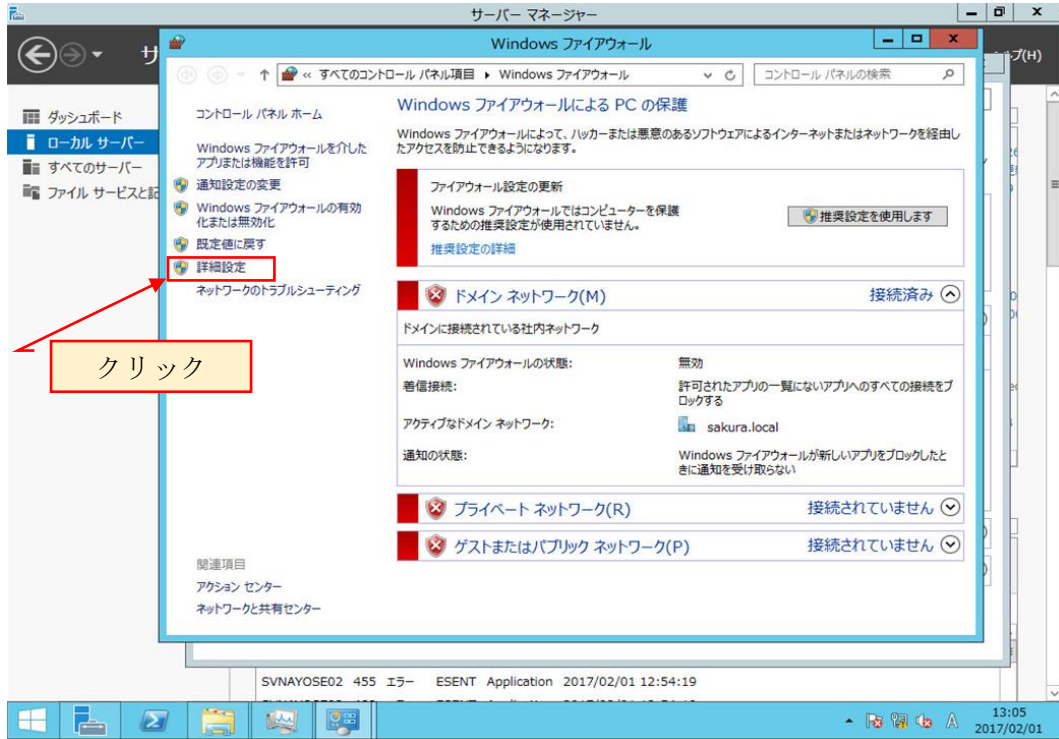
これで、Microsoft SQL Server2019 Express のインストールは終了です。

続いて、TCP/UDP のポートを解放します。

### 3. TCP1433 ポートと UDP1433 を解放する

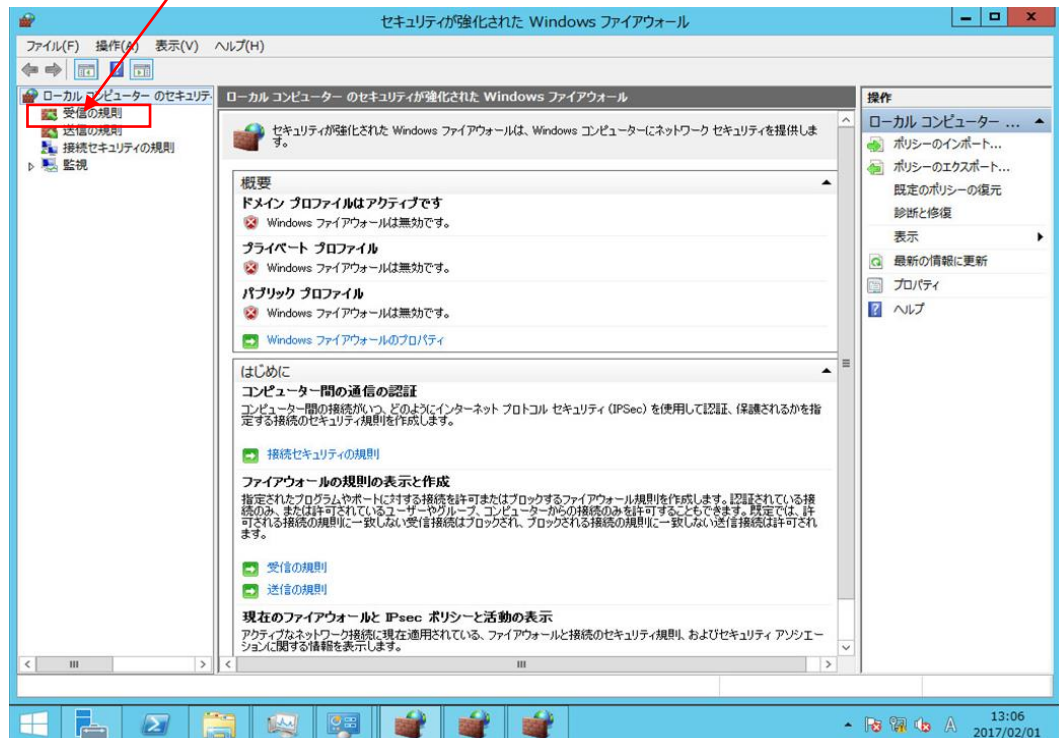
Windows Server の場合は、サーバーマネージャーを開き、「Windows ファイアウォール」の設定をクリック。

Windows10/Windows11 の場合は、コントロールパネル>システムとセキュリティ>Windows Defender ファイアウォール画面を開き、詳細設定をクリックします。

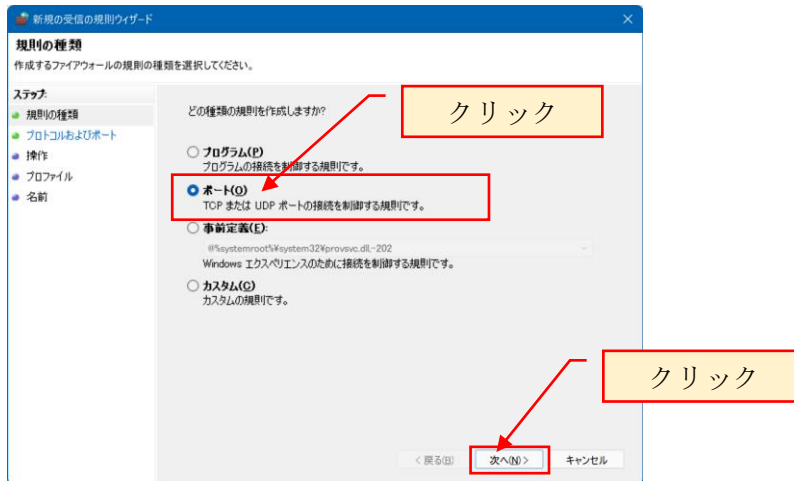
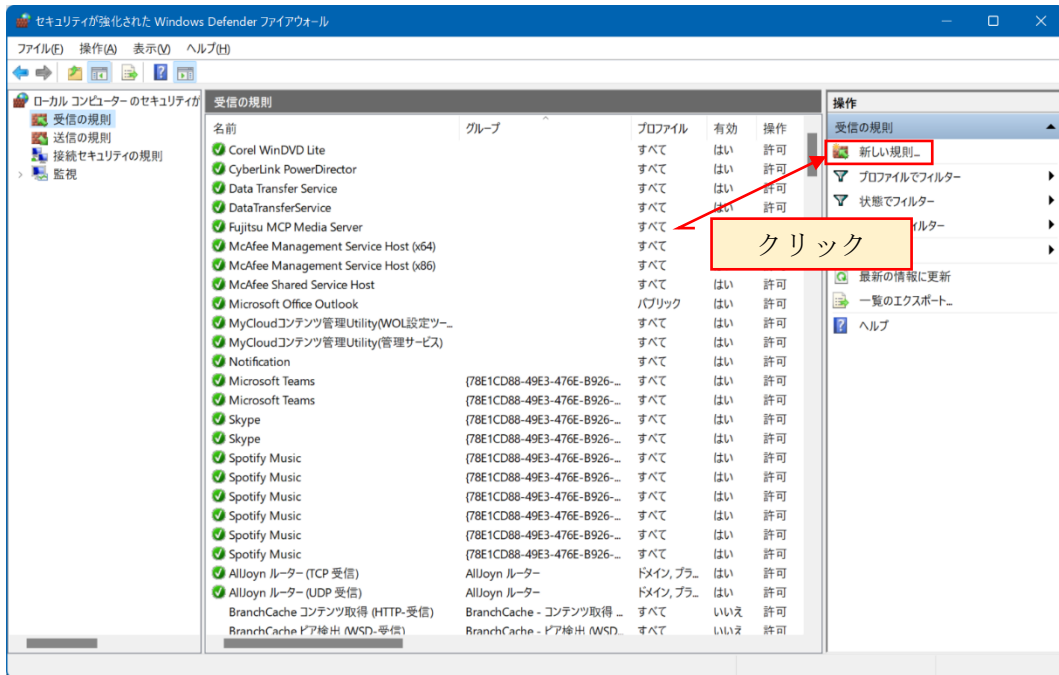


受信の規則

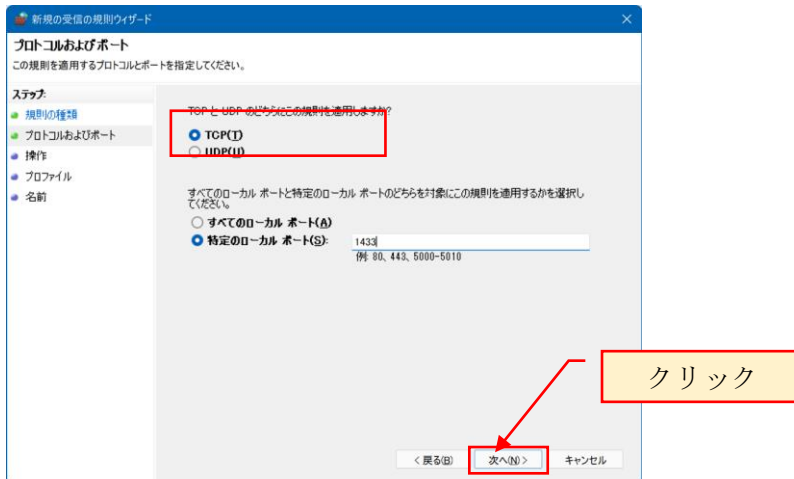
クリック

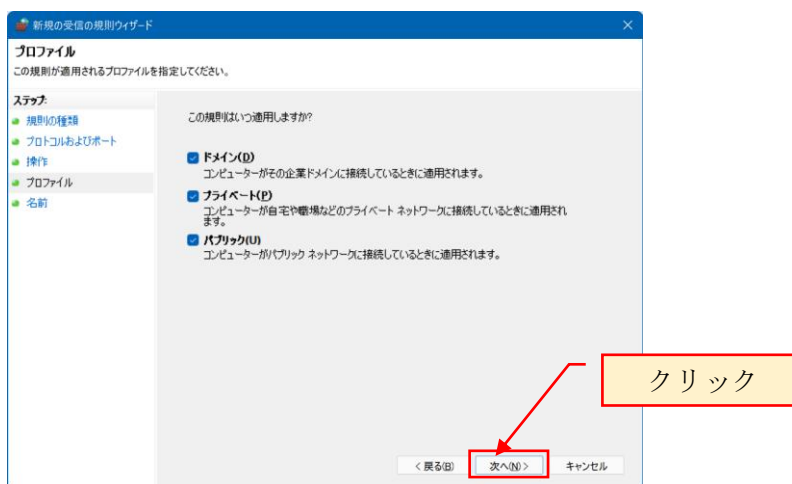


新しい規則をクリックします。

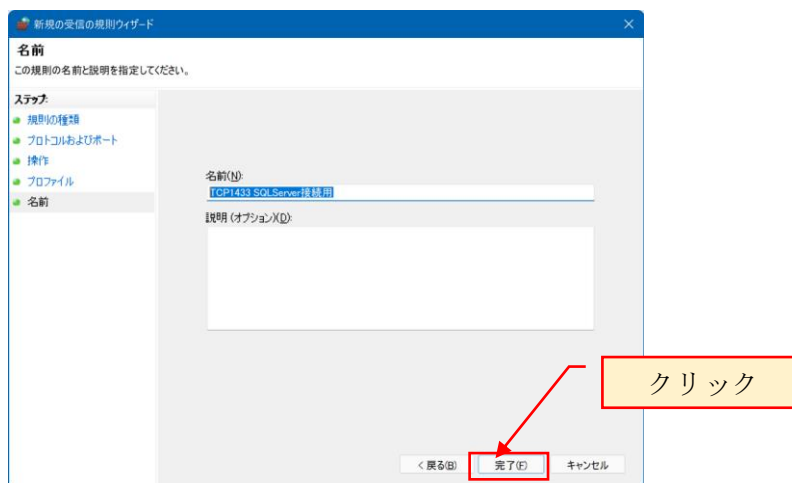


TCP を選択後、特定のローカルポートに 1433 と入力します。

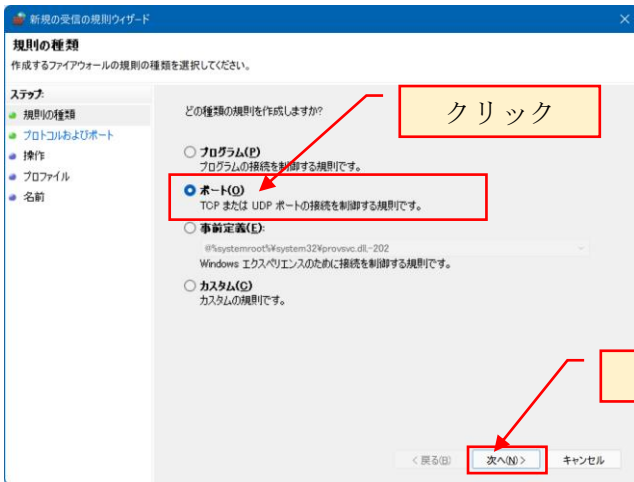
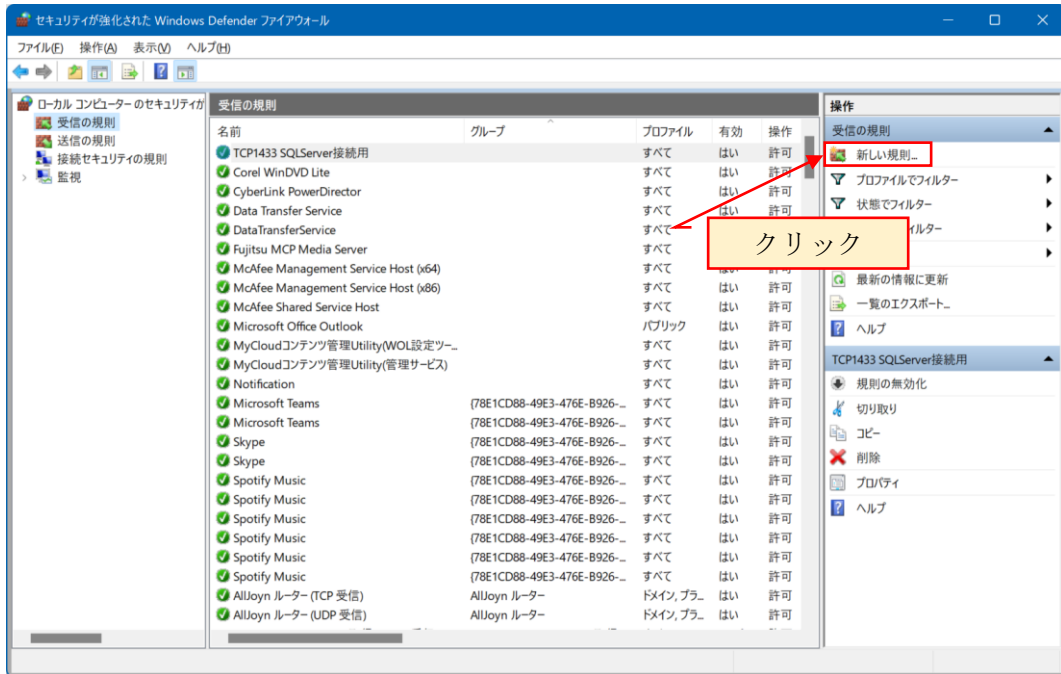




名前には自由に設定できますが、ここでは「TCP1433 SQLServer 接続用」とします。



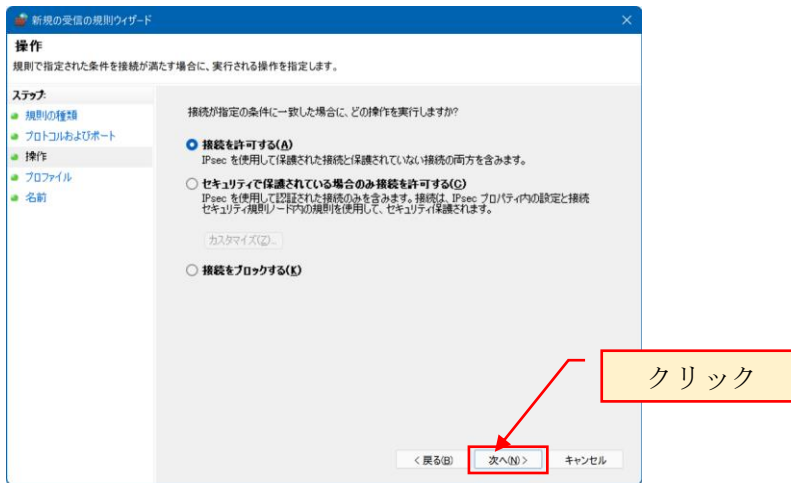
続いて、UDP ポートを設定します。



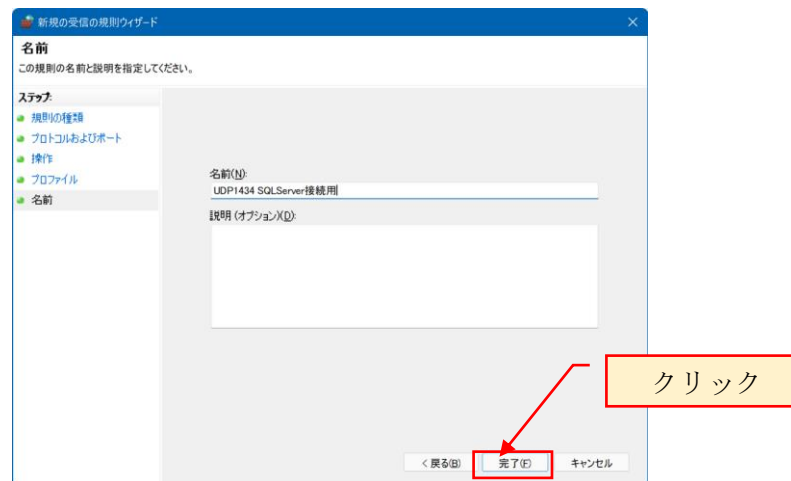
UDP を選択後、特定のローカルポートに 1434 と入力します。







名前には自由に設定できますが、ここでは「UDP1434 SQLServer 接続用」とします。



上記で TCP1433 ポートと UDP1434 ポートの解放は完了です。  
Windows ファイアウォールの設定画面を終了します。

## 4. TCP/IP を有効にする

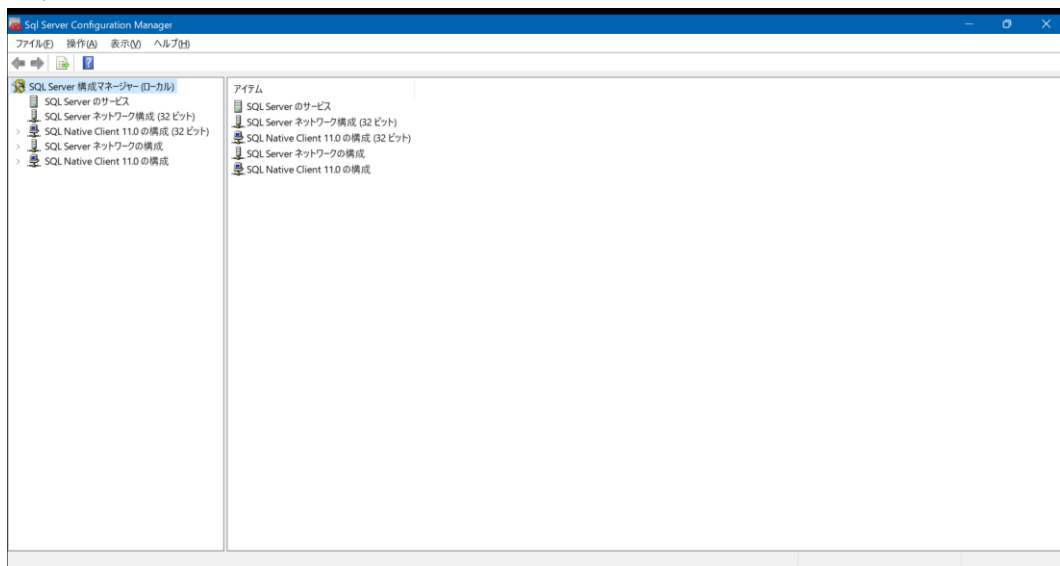
SQL Server2019 構成マネージャを起動して、TCP/IP を有効化します。  
SQL Server2019 構成マネージャは、スタートメニューから起動します。



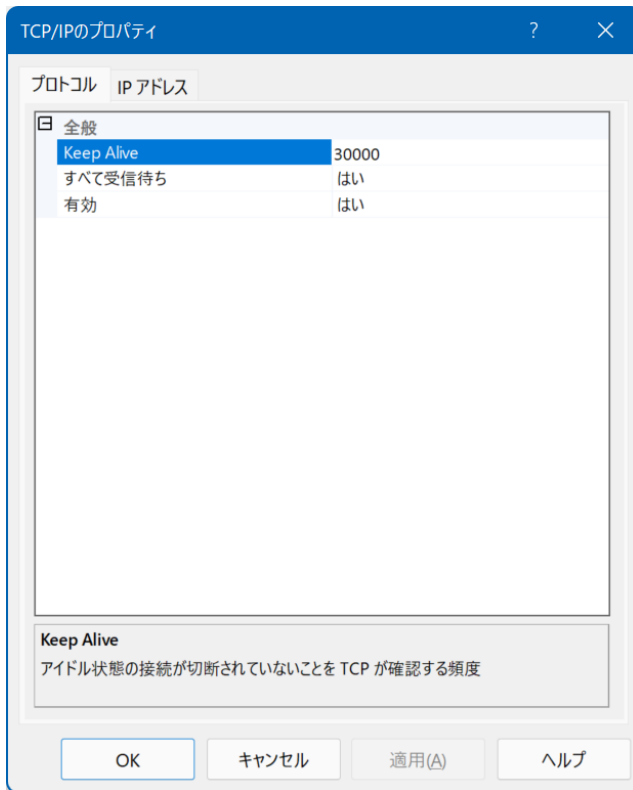
スタートメニューに SQL Server 2019 構成マネージャが表示されない時は、スタートメニューの検索ボックスに `SQLServerManager15.msc` と入力すると表示されます。

ユーザアカウント制御の警告メッセージ「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示されるので「はい」を応答します。

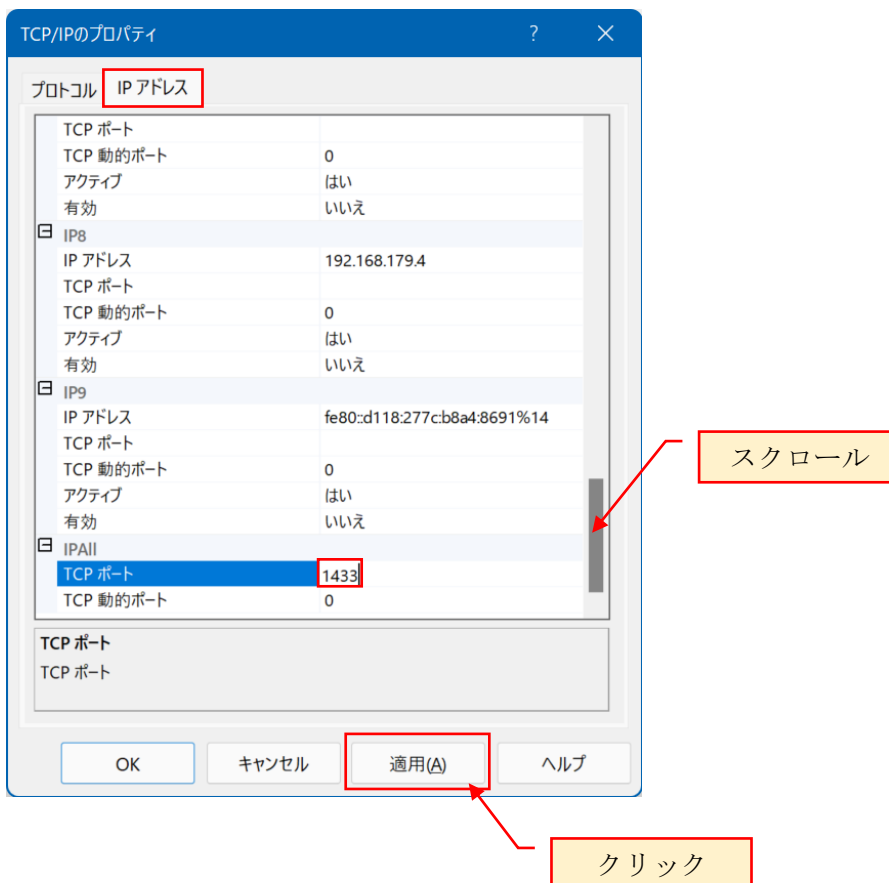
SQL Server 2019 構成マネージャが起動されます。







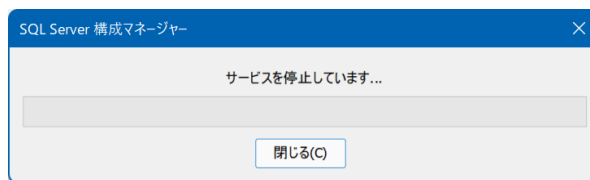
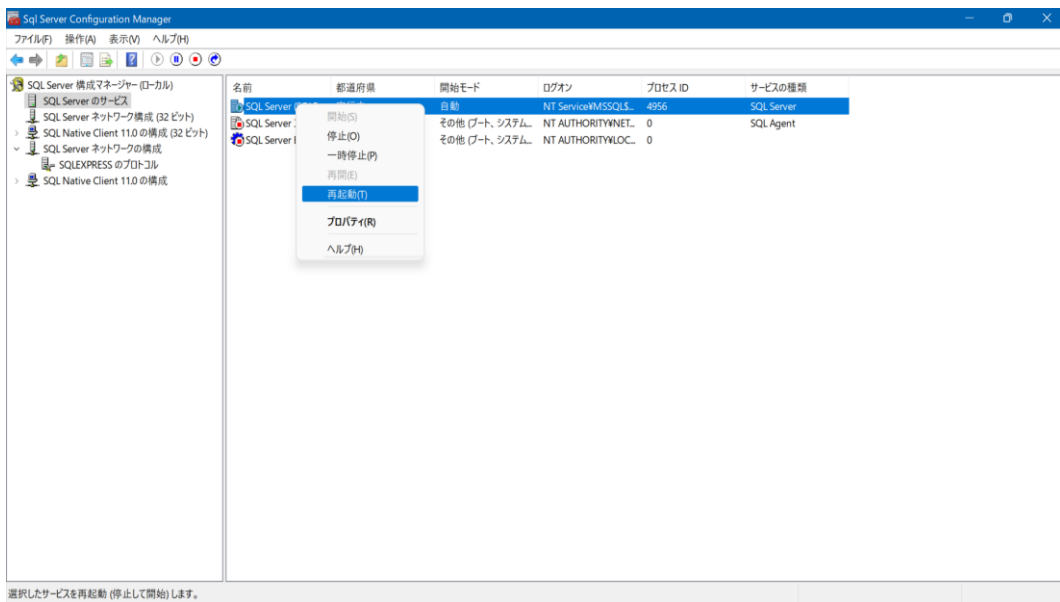
TCP/IP プロパティの IP アドレスタブにある IPALL の TCP Port に 1433 を指定します。



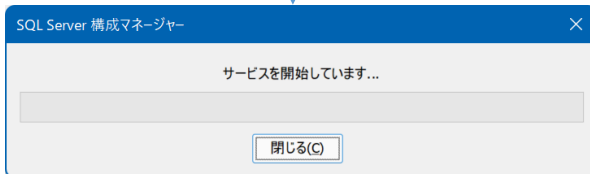


SQL Server を再起動します。

SQL Server のサービスを選択し、SQLEXPRESS を選択して右クリックして表示される「再起動」をクリックします。



自動で切り替わります。



上記で、SQL Server が再起動されます。

SQL Server 構成マネージャーを終了します。

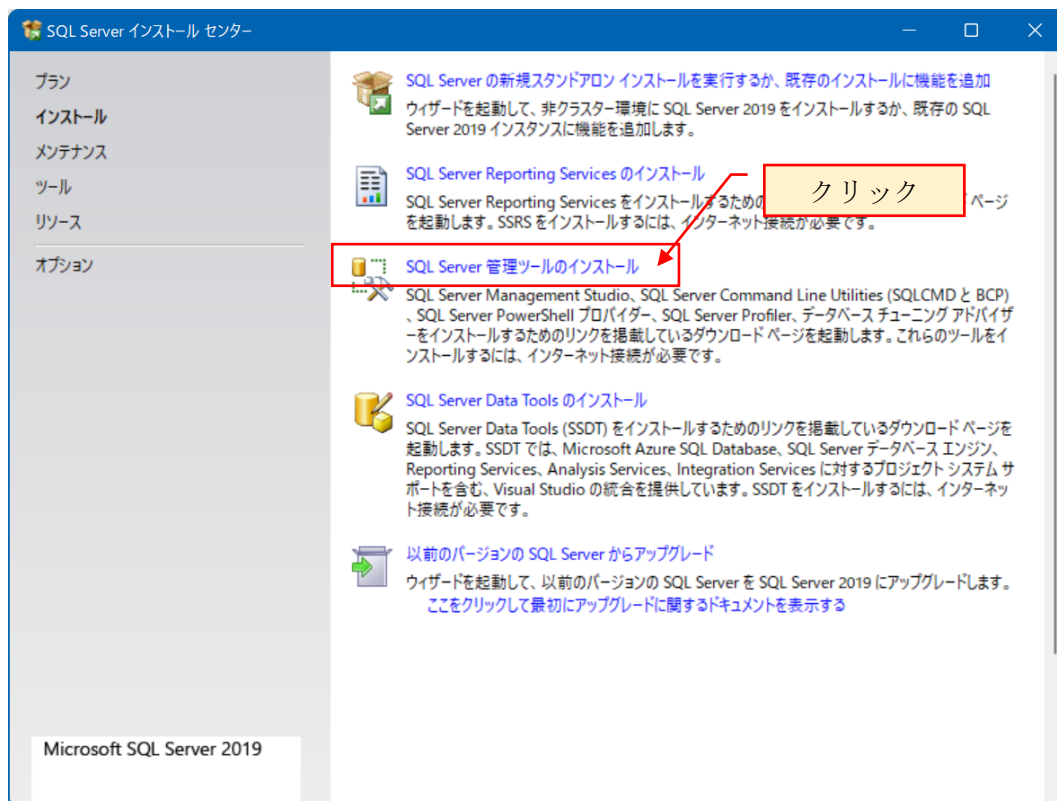
## 5. SQL Server Management Studio をインストールする

SQL Server 管理マネージャの Microsoft SQL Server Management Studio をインストールします。

SQL Server インストールメディアのダウンロード先は、標準では以下の通りです。

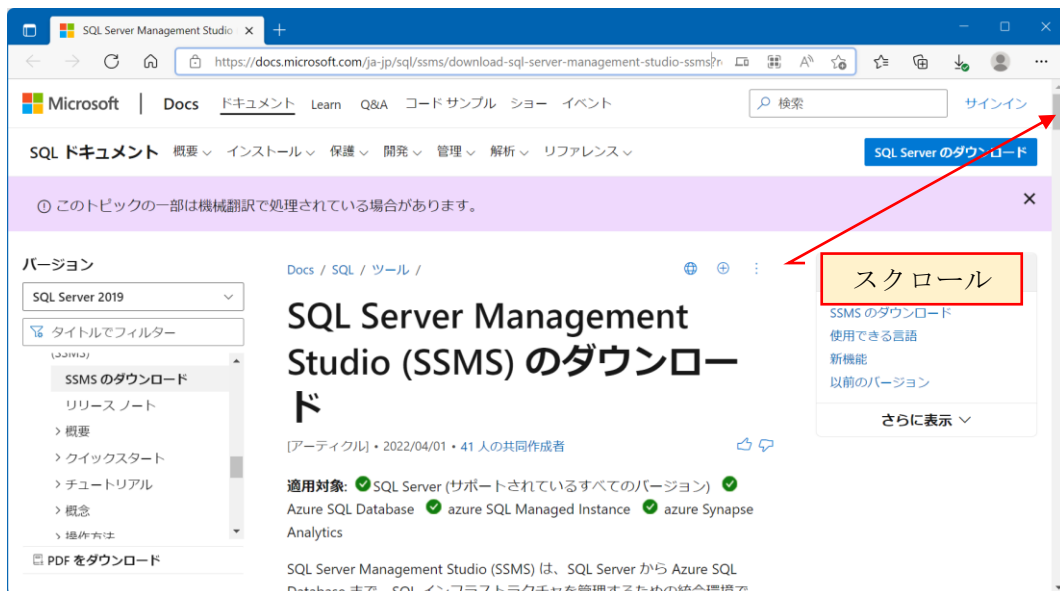
C:\¥SQL2019¥ExpressAdv\_JPN

上記のフォルダ内にある SETUP.EXE を実行すると、SQL Server のインストールセンターが開かれます。

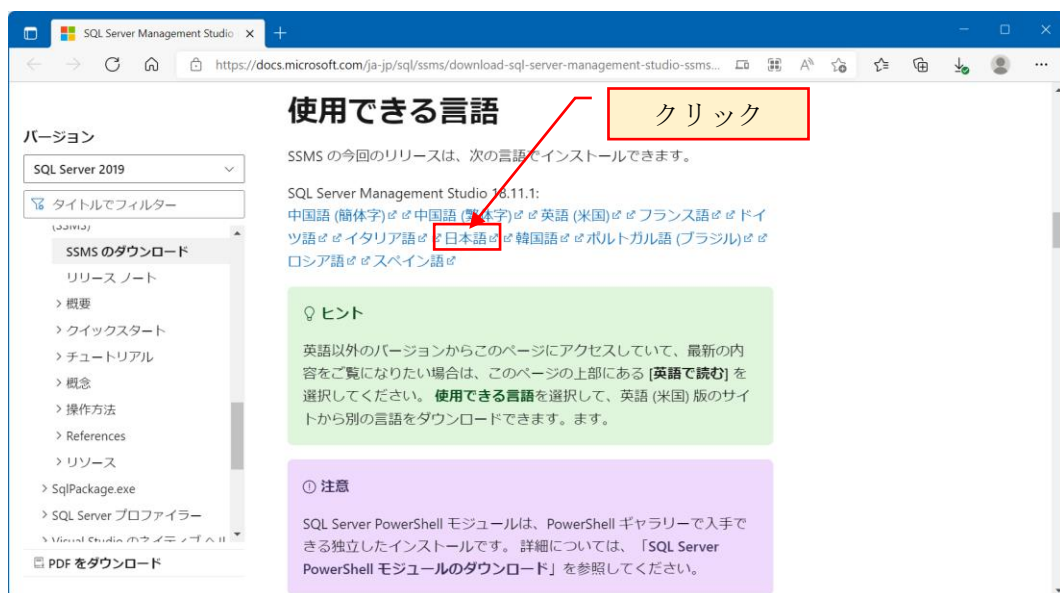


上記以外に、下記のサイトからも SQL Server Management Studio のインストーラをダウンロードできます。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms/download-sql-server-management-studio-ssms?redirectedfrom=MSDN&view=sql-server-ver15>

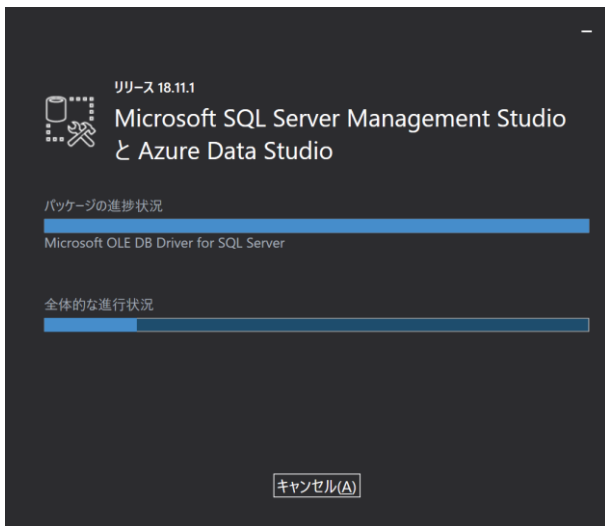
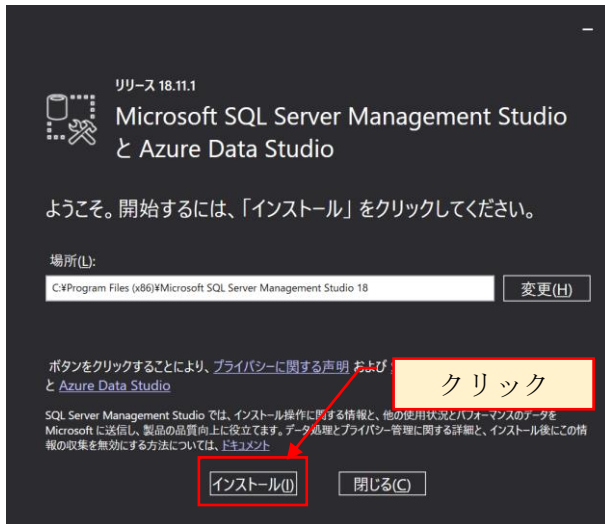


上記の画面を下方にスクロールし、「使用できる言語」と表示されている項目の「日本語」をクリックすると、SQL Server Management Studio の日本語版をダウンロードします。

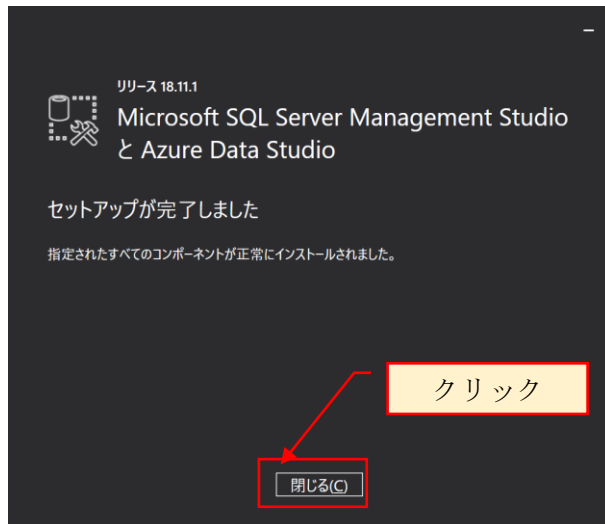


ダウンロードが完了すると、ダウンロードフォルダに SSMS-Setup-JPN.exe が格納されています。

SSMS-Setup-JPN.exe を実行すると、SQL Server Management Studio のインストールが開始されます。



インストールが完了すると、下記の画面が表示されます。



SQL Server インストールセンターを閉じます。



## 6. SQL Server の設定

### Microsoft SQL Server Management Studio 起動

起動方法は、スタートメニューの Microsoft SQL Server Tools 18<sup>※1</sup> を展開し表示される Microsoft SQL Server Management Studio 18 をクリックして起動します。



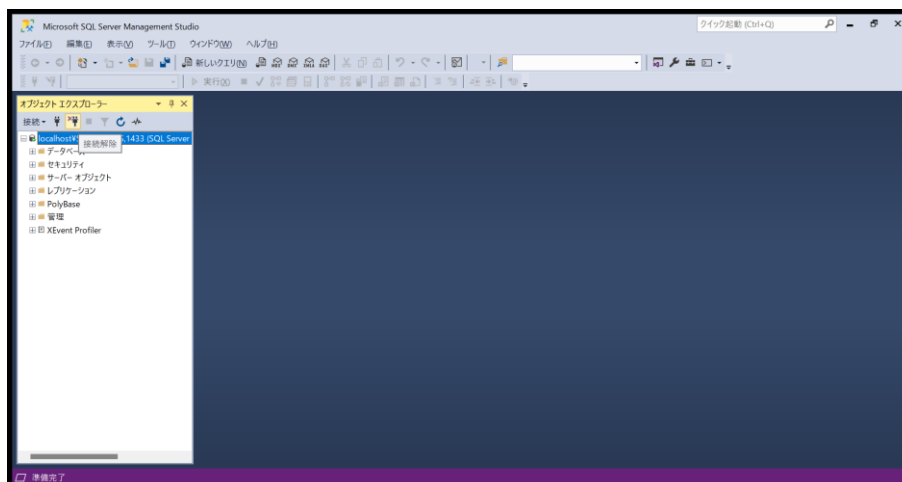
※1 導入時点のバージョンによって異なります。

### 6.1 Windows 認証でログインできるか確認します。

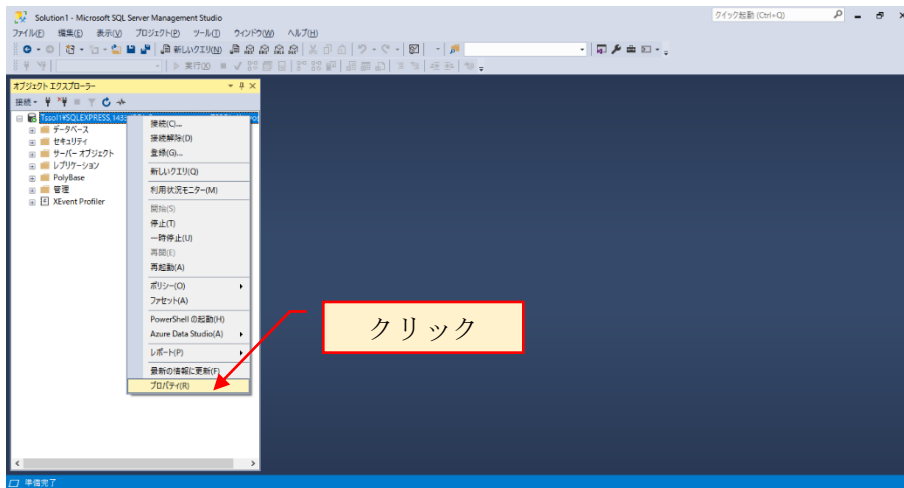
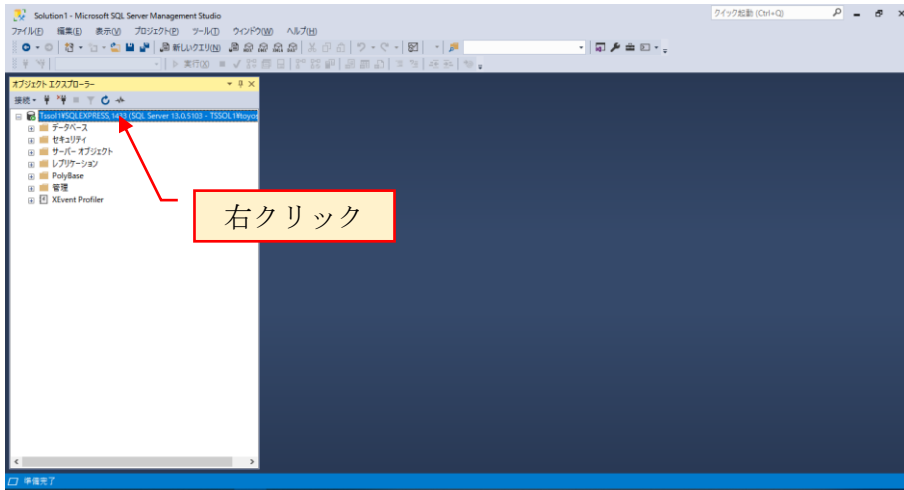
サーバ名 : localhost¥SQLEXPRESS,1433



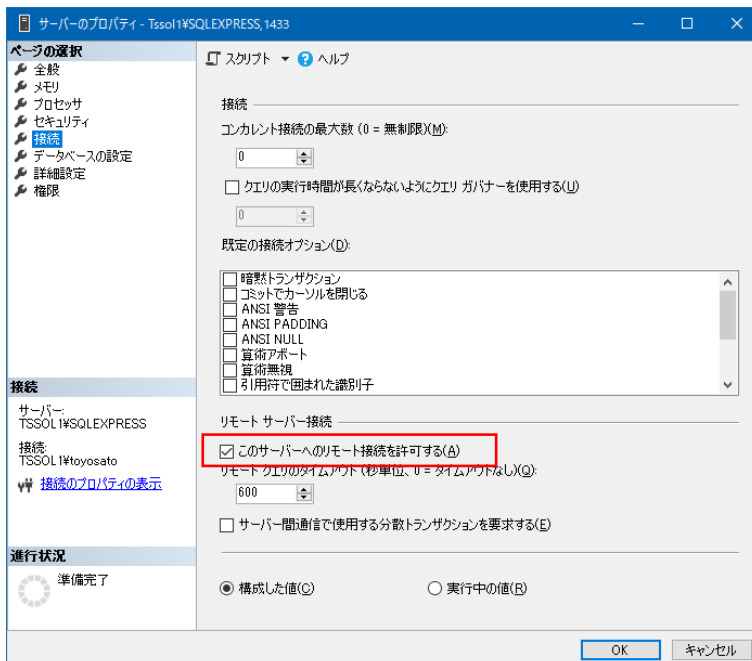
正常に起動される事を確認します。

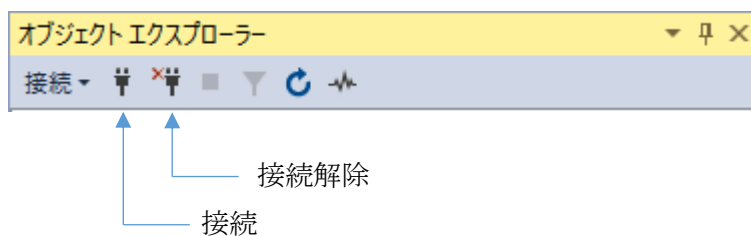
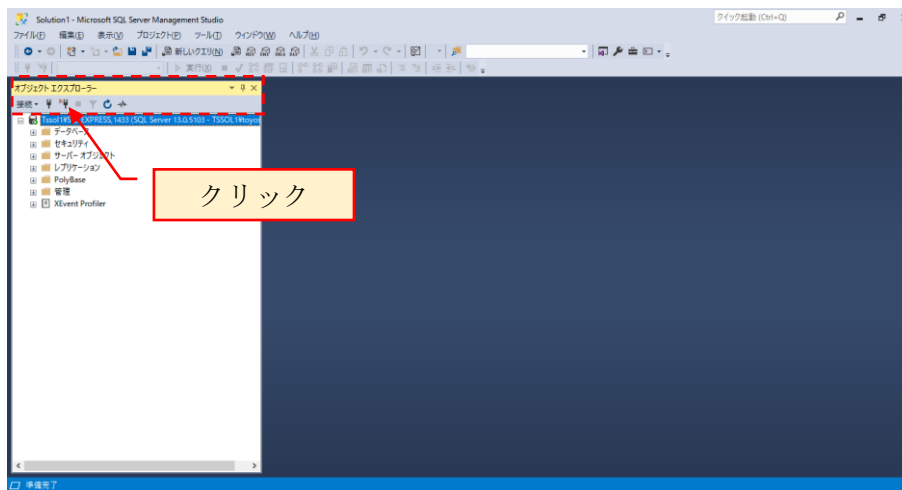
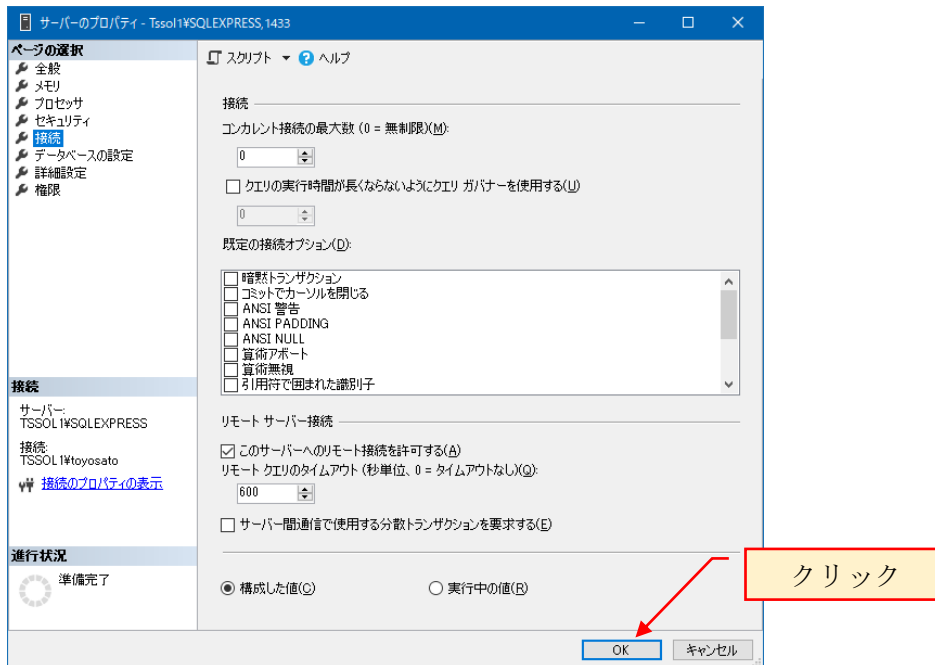


## 6.2 リモート接続が許可されている事を確認します。



このサーバへのリモート接続を許可するにチェックが入っていることを確認します。  
チェックが入っていない場合はチェックを入れて[OK]をクリックします。



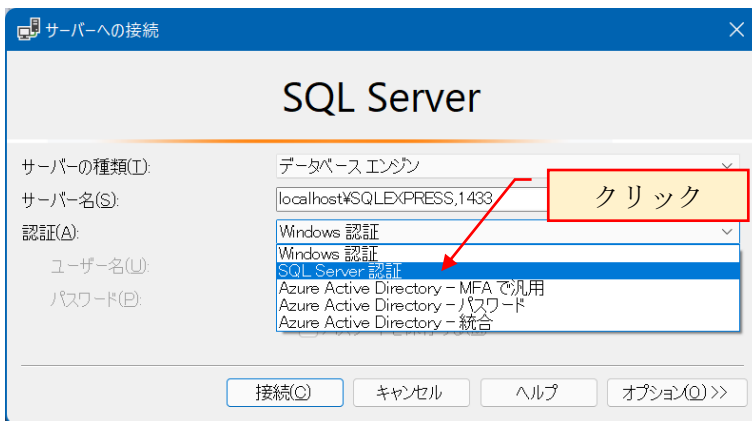
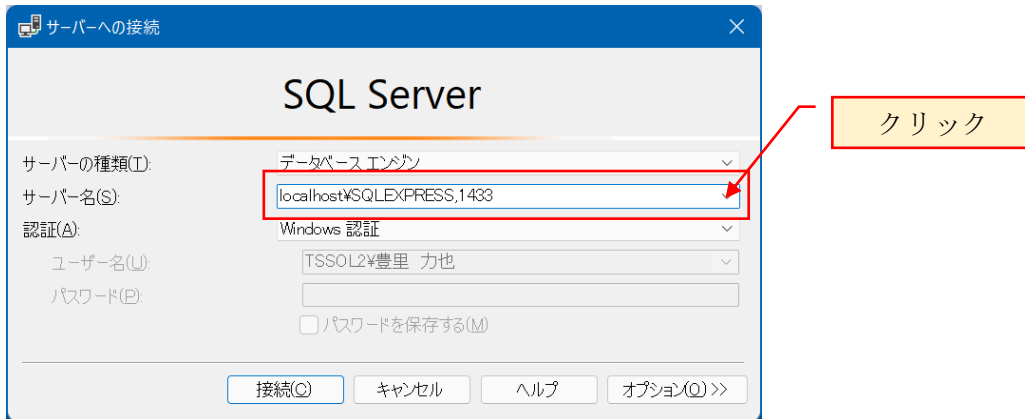


切断をクリックすると、現在の接続 (Windows 認証) を切断します。  
 次項で、SQL Server 認証で接続の確認を行なうため、「接続解除」をクリックします。

### 6.3 sa アカウントでログインできるか確認します。

SQL Server Management Studio を起動し、

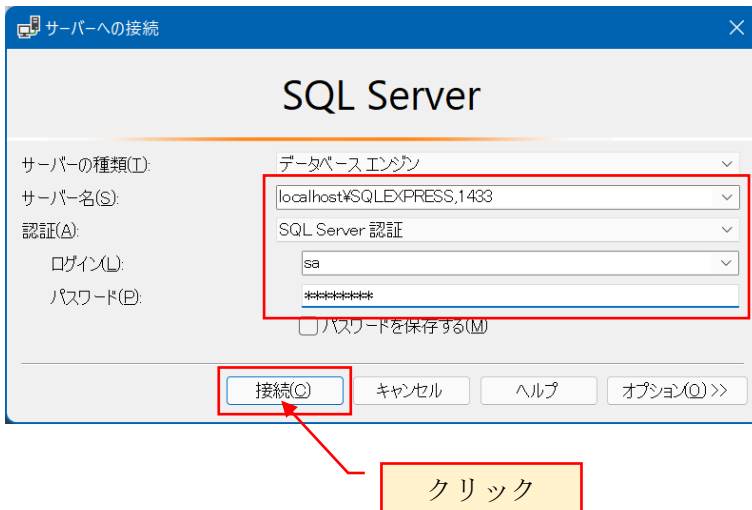
サーバ名 : localhost¥SQLEXPRESS,1433 と入力します。



SQL Server 認証を選択します。

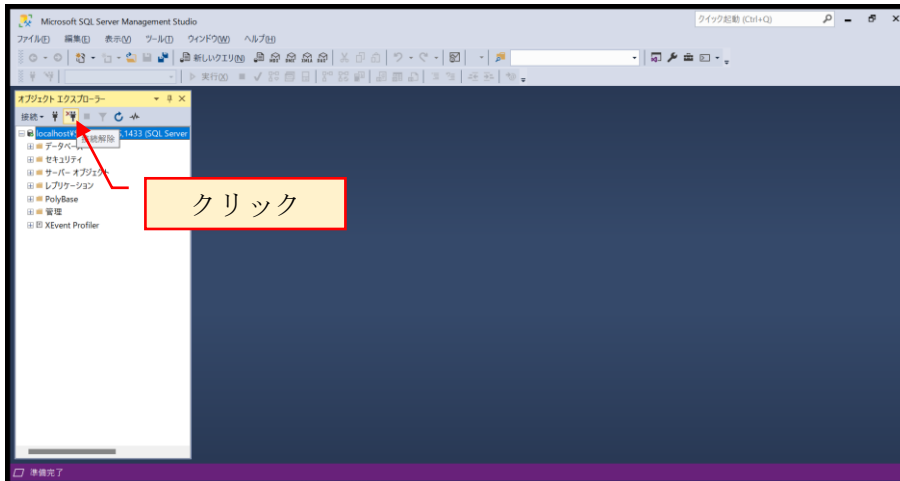
ログイン : sa

パスワード : sa!admin

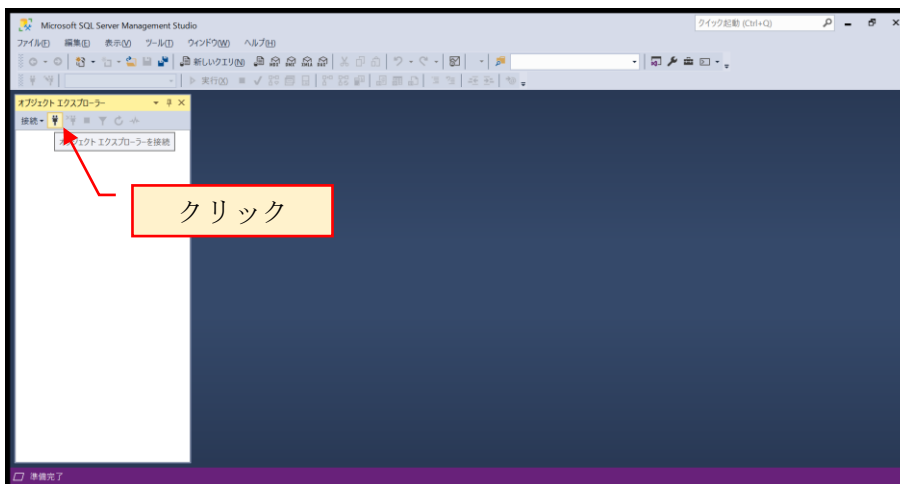


sa アカウントは、データベース全体の保守用で、らくらくドキュメントサーチでは使用しません。

正常に起動される事を確認し、「接続解除」をクリックします。



「オブジェクトエクスプローラを接続」をクリックすると、「サーバへの接続」ダイアログを表示できます。



サーバへの接続ダイアログ



## 6.4 新しいログイン名の作成

らくらくドキュメントサーチのアプリケーションで **SQL Server** にログインするためのアカウントを作成します。

**Windows** 認証でログインし直します。



新しいログイン名を作成します。

作成するアカウントは、**docsearch**

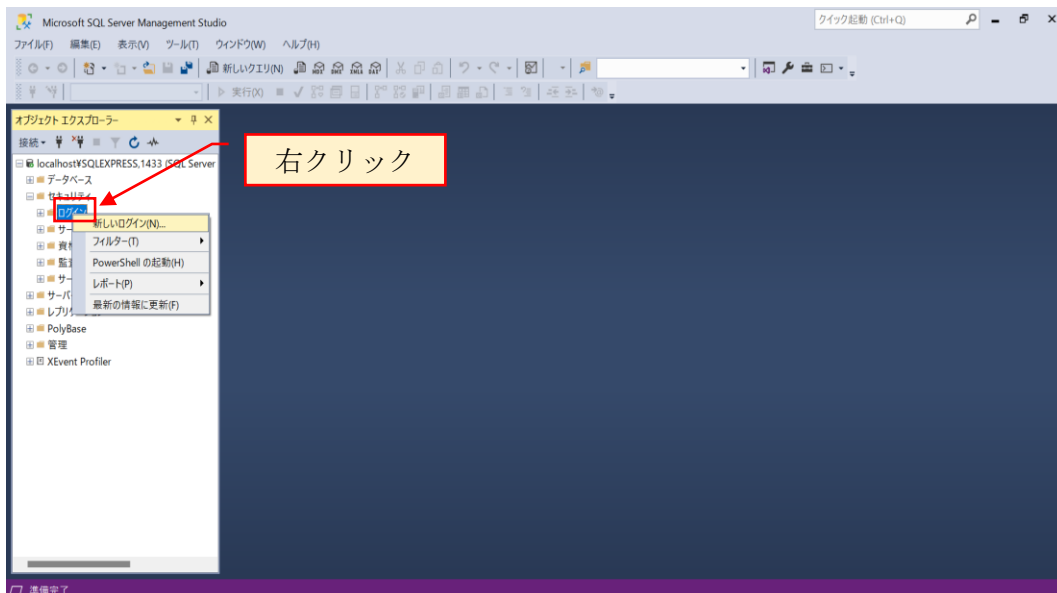
**SQL Server** 認証

ログイン名は **docsearch**

パスワードは **docsearch!admin**

ここで作成するアカウント「docsearch」は、らくらくドキュメントサーチのプログラムがデータベースにアクセスするためのアカウントとなります。

下記の画面が表示されたら、オブジェクトエクスプローラの「セキュリティ」を+をクリックして展開し、表示される「ログイン」を選択して右クリックで表示される「新しいログイン」を選択します。



ログイン名 : docsearch

SQL Server 認証を選択

パスワード : docsearch!admin

ログイン - 新規作成

ページの選択

- 全般
- サーバー ロール
- ユーザー マッピング
- セキュリティ保護可能なリソース
- 状態

接続

サーバー: TSSOL2\SQL&PRESS

接続: TSSOL2\豊里 カ也

接続のプロパティの表示

進行状況

準備完了

ログイン名(N): docsearch 検索(E)...

Windows 認証(W)

SQL Server 認証(S)

パスワード(P): ●●●●●●●●●●●●●●●●

パスワードの確認入力(C): ●●●●●●●●●●●●●●●●

古いパスワードを指定する(I)

古いパスワード(Q):

パスワード ポリシーを適用する(E)

パスワードの期限を適用する(S)

次回ログイン時のパスワードの変更を必須にする(L)

証明書にマップ済み(B)

非対称キーにマップ済み(I)

資格情報にマップ(M)

マップされた資格情報

資格情報	プロバイダー
------	--------

追加(A)

削除(D)

既定のデータベース(D): master

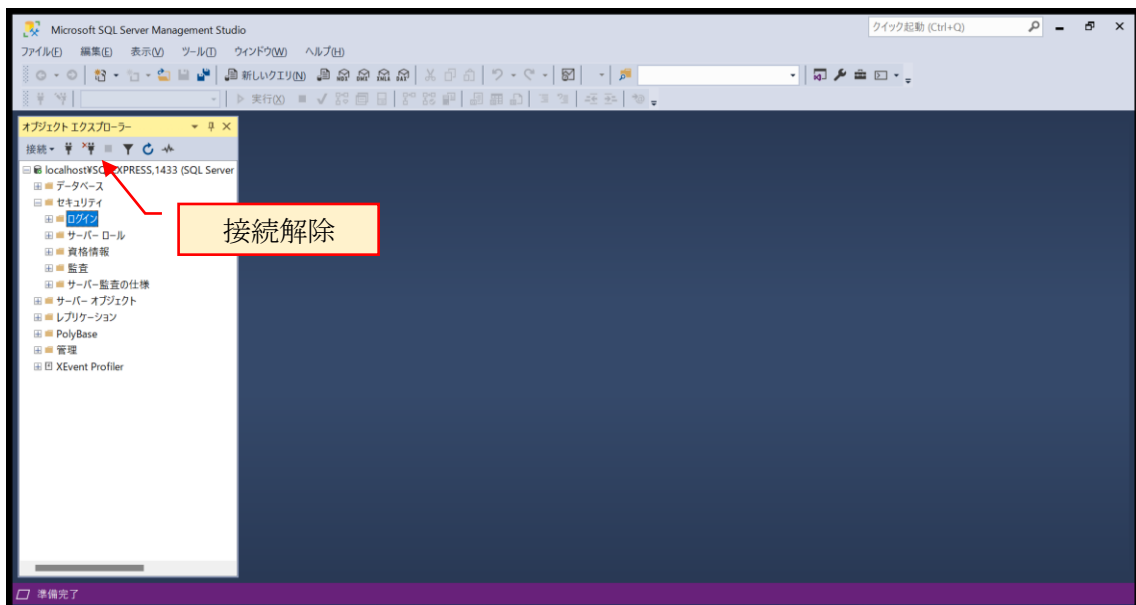
既定の言語(G): <既定>

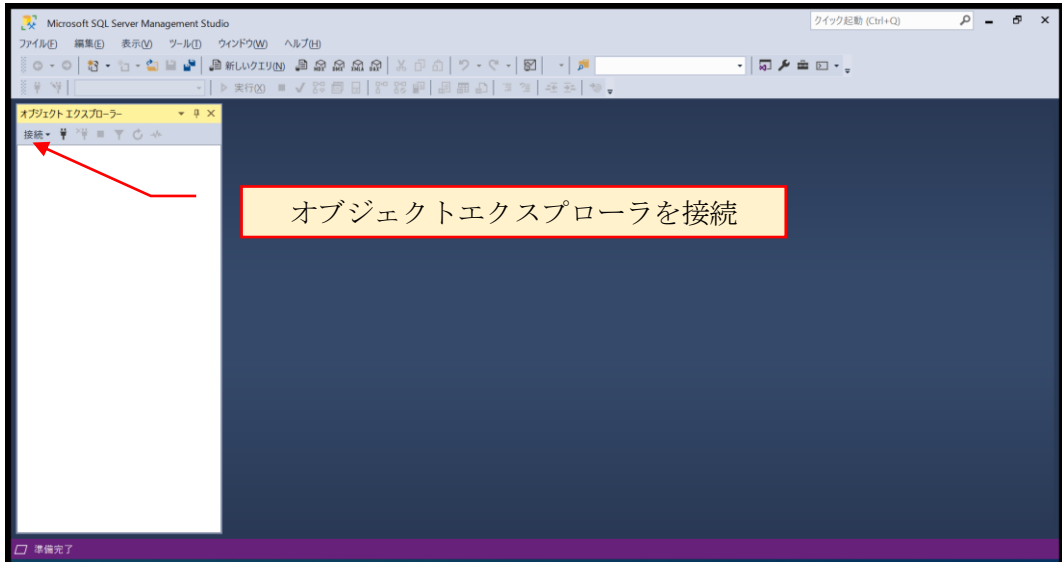
OK キャンセル

上記を入力したら「OK」をクリックします。

クリック

上記で作成したアカウントでログインできるか、確認します。



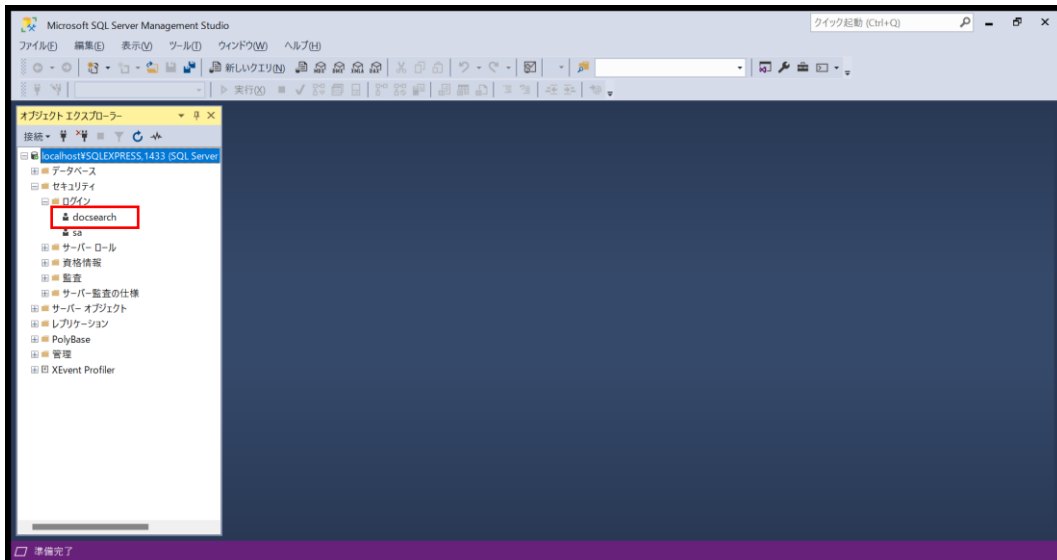


### SQL Server 認証を選択

ログイン : docsearch、パスワード : docsearch!admin を入力し「接続」をクリック



セキュリティを展開し、ログインの中に docsearch が存在している事を確認します。



ログインに docsearch が存在していれば、正しく作成された事が確認できます。



## 6.5 新しいデータベースの作成

Windows 認証でログインをし直してください。



作成するデータベースの情報：

データベース名：docsearchsqldb

物理パス：例として下記のパスで作成しますが、任意に指定できます。

D:\DocSearchdb\docsearchsqldb.mdf

D:\DocSearchdb\docsearchsqldb\_log.ldf

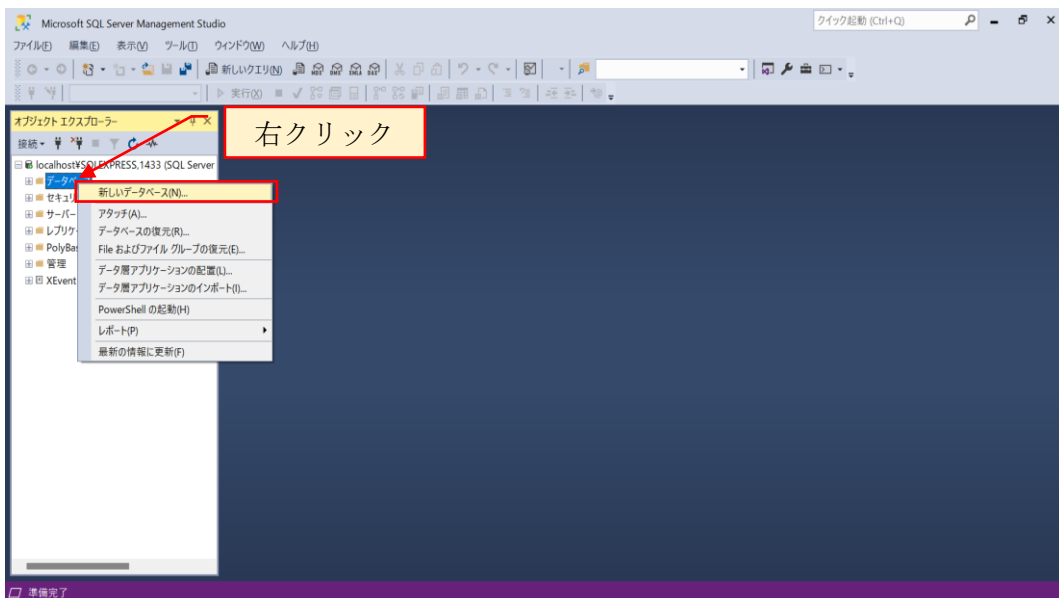
データベースの初期サイズ：例として下記に示しますが、任意に指定できます。

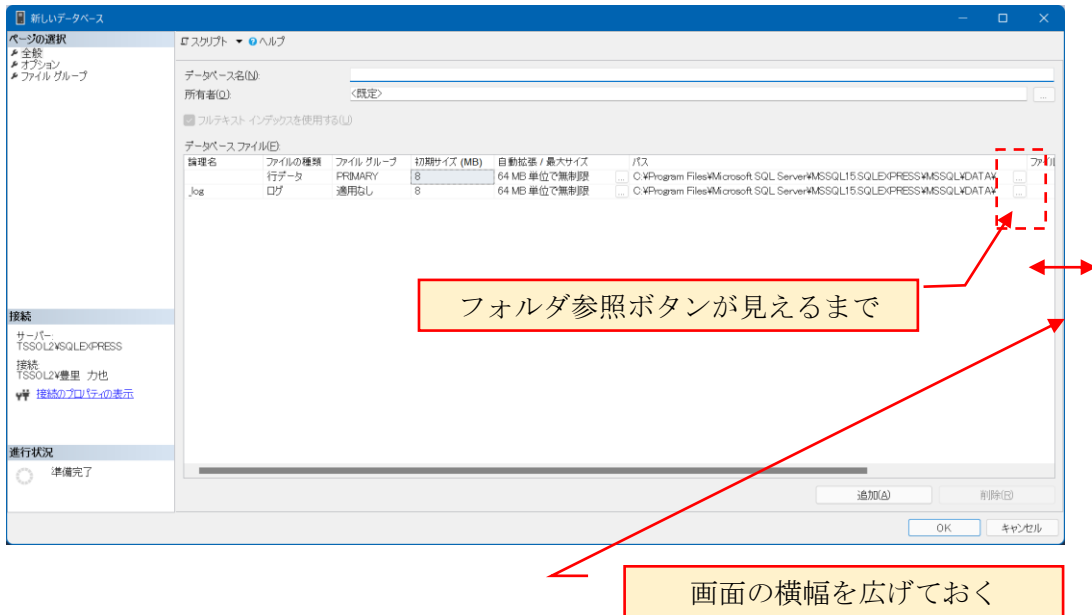
行データ：256MB 自動拡張：64MB 単位で無制限

ログ：64MB 自動拡張：64MB 単位で無制限

データベースを選択し、右クリックで表示される「新しいデータベース」を選択します。

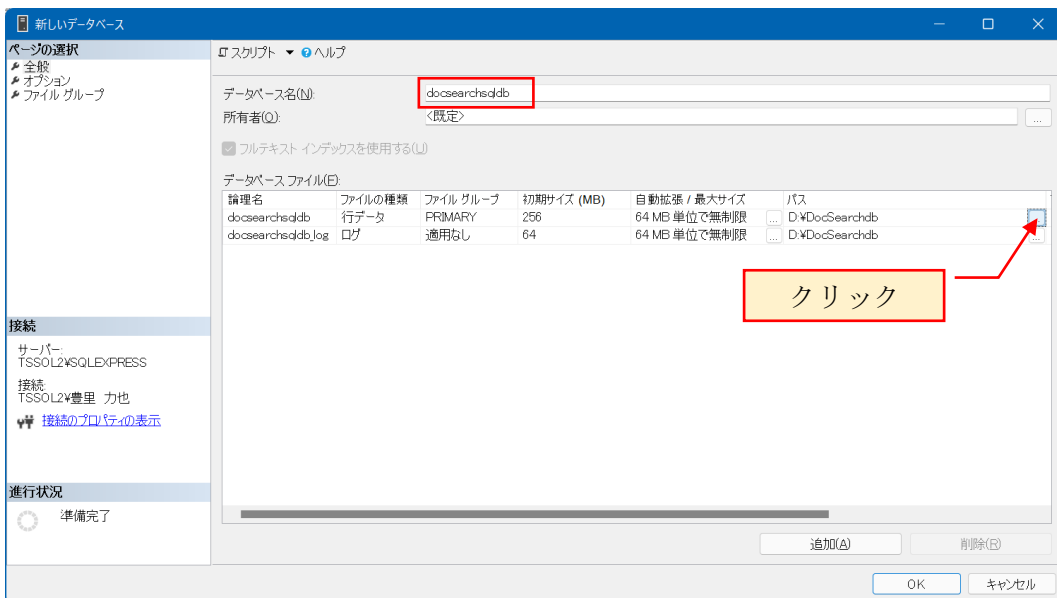
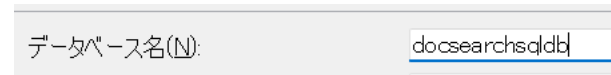
下記の画面が表示されたら、オブジェクトエクスプローラのデータベースを選択し右クリックで表示される「新しいデータベース」を選択します。





データベースを作成する場所は、D:\DocSearchdb のため、あらかじめデータベース格納先フォルダを作成します。

データベース名に docsearchsqldb を入力します。



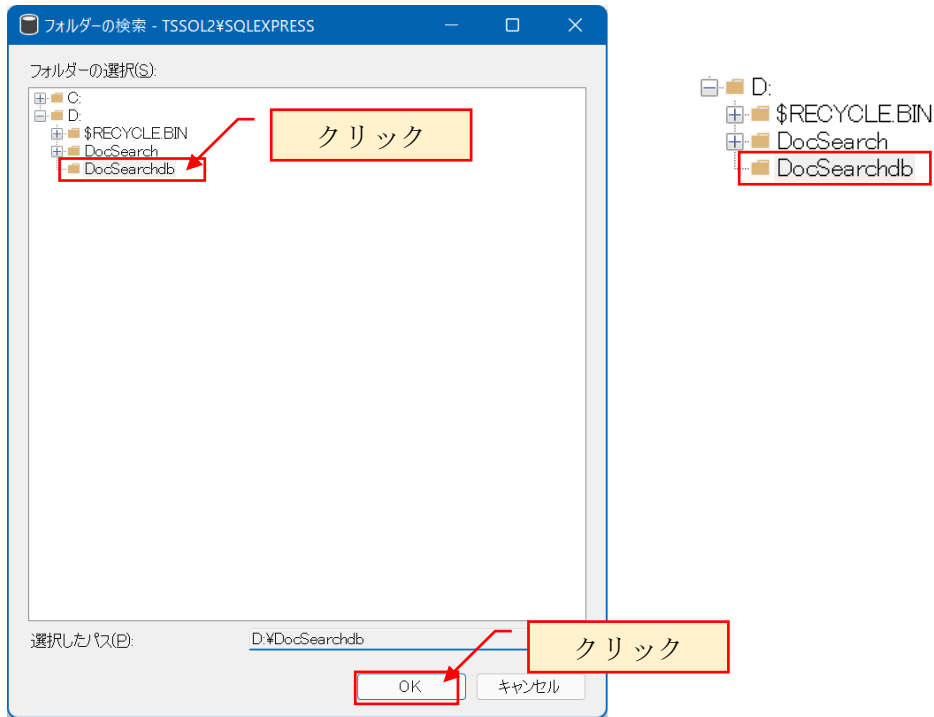
初期サイズを指定します。

論理名	ファイルの種類	ファイルグループ	初期サイズ (MB)	自動拡張 / 最大サイズ
docsearchsqldb	行データ	PRIMARY	256	64 MB 単位で無制限
docsearchsqldb_log	ログ	適用なし	64	64 MB 単位で無制限

データベースの格納場所を指定します。

パス
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.SQLEXPRESS\MSSQL\DATA\
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.SQLEXPRESS\MSSQL\DATA\

フォルダ参照ボタンをクリック



パスは、下記のように表示されます。

パス
D:\DocSearchdb
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.SQLEXPRESS\MSSQL\DATA

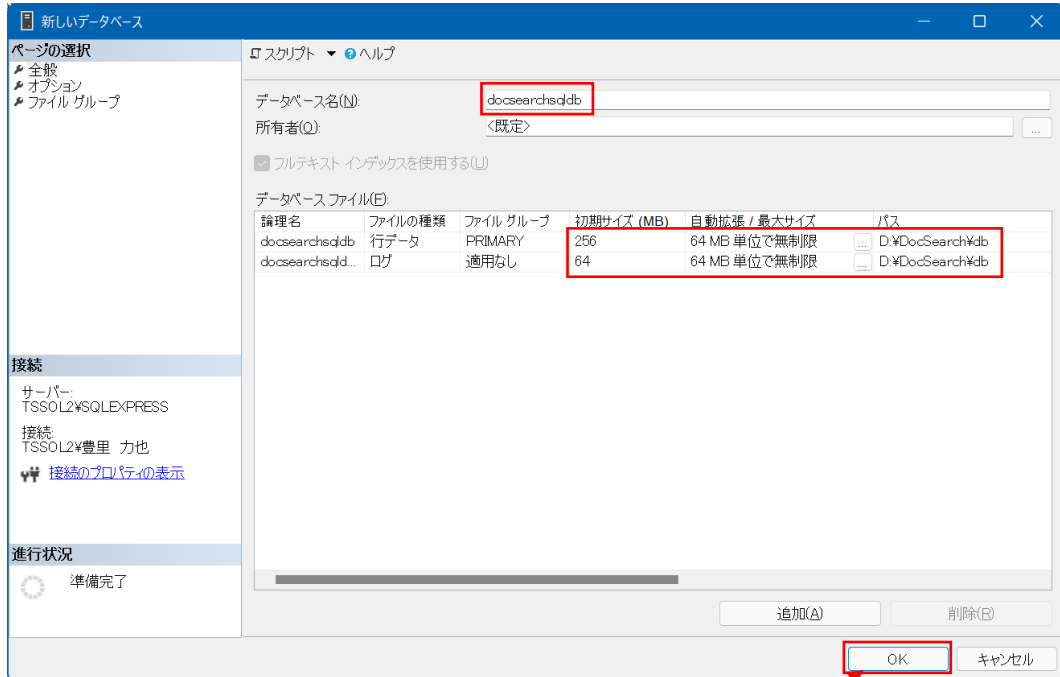
同様にログについても格納場所を指定します。

パス
D:\DocSearchdb
D:\DocSearchdb

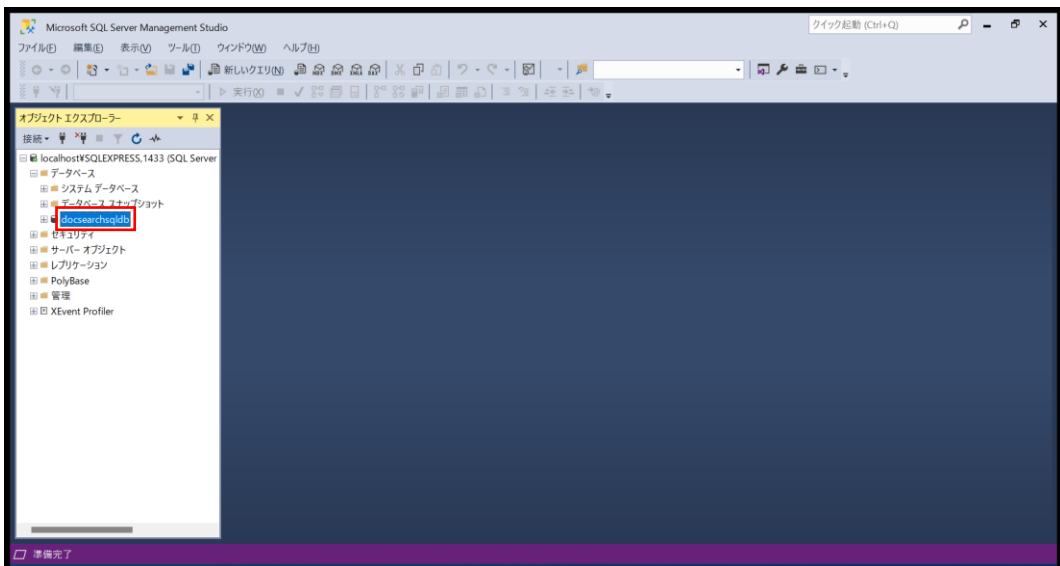
初期サイズ、自動拡張/最大サイズ、パスが、下記の通り指定されている事を確認します。

データベースファイル(F):					
論理名	ファイルの種類	ファイルグループ	初期サイズ (MB)	自動拡張 / 最大サイズ	パス
docsearchsqldb	行データ	PRIMARY	256	64 MB 単位で無制限	D:\DocSearchdb
docsearchsqldb_log	ログ	適用なし	64	64 MB 単位で無制限	D:\DocSearchdb

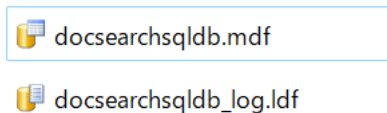
問題なく指定されている事を確認したら、「OK」をクリックします。



オブジェクトエクスプローラのデータベースに docsearchsqldb が表示されていれば、問題なくデータベースが作成されています。



D:\¥DocSearchdb には、下記のデータベースファイルが作成されています。



## 6.6 テーブルを作成する

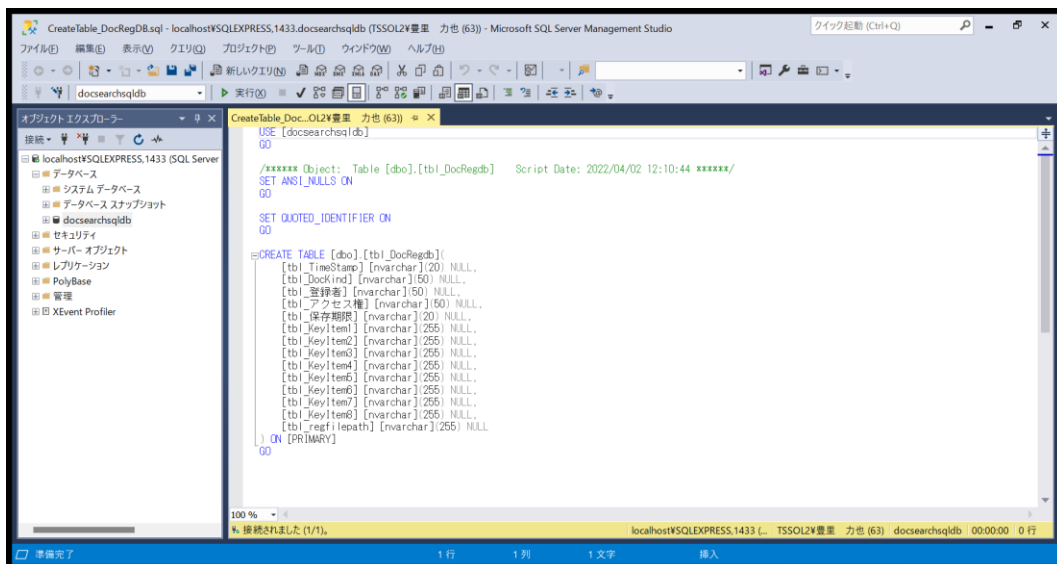
テーブル作成用 sql コマンドは、ダウンロードサイトからダウンロードします。

作成するテーブルとテーブル作成用 sql コマンドは以下の通りです。

作成するテーブル名	用途	sql コマンドファイル名
DocRegDB	検索キーデータ	CreateTable_DocRegDB.sql
UserAccount	利用者情報管理	CreateTable_UserAccount.sql

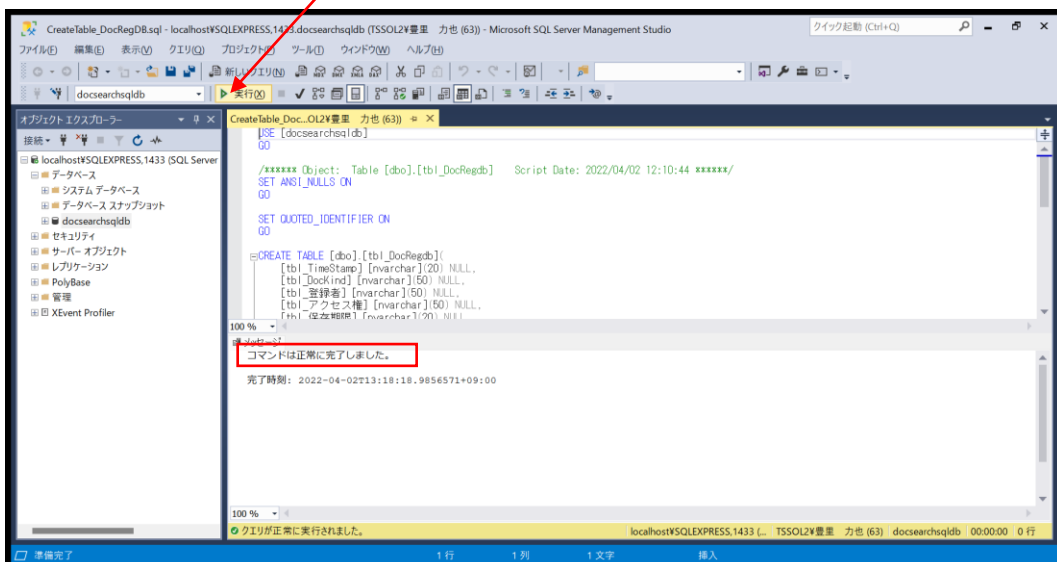
SQLServer Management Studio を Windows 認証で起動します。

メニューバーのファイル>開く>ファイルから、あらかじめダウンロードした sql コマンドファイルの CreateTable\_DocRegDB.sql を指定して取り込みます。

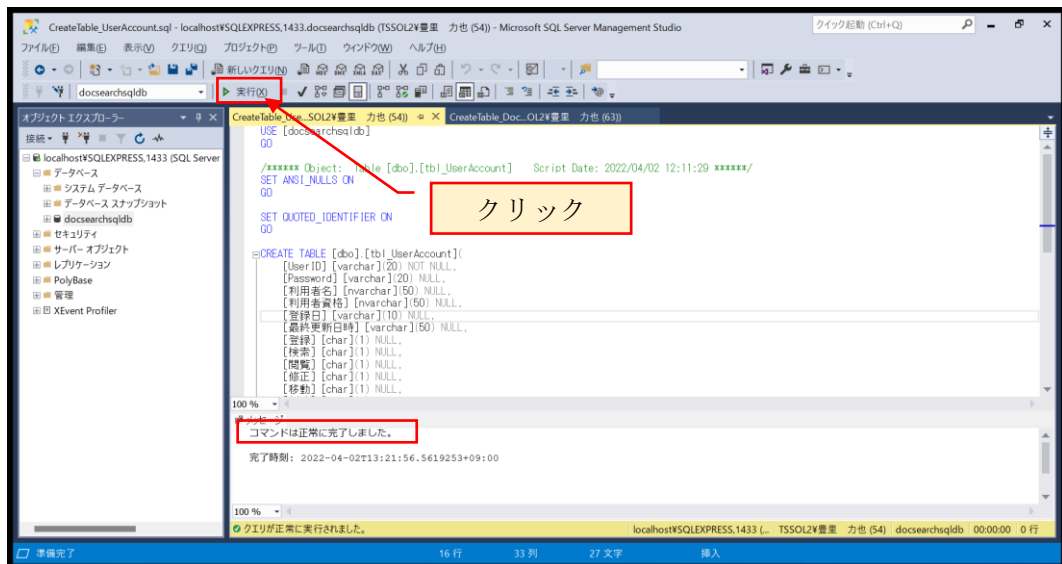


「実行」をクリックします。

クリック

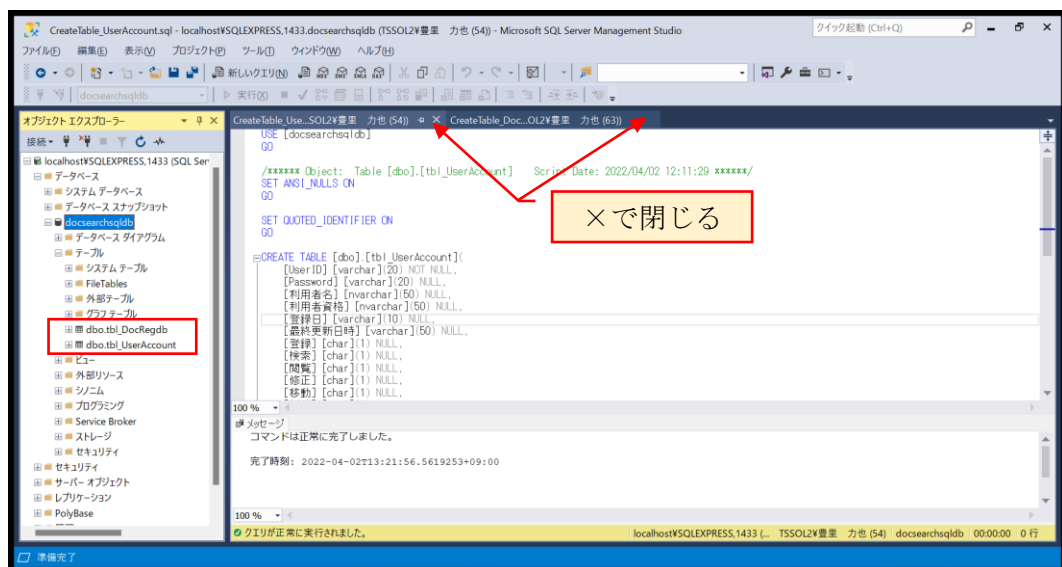


同様に、CreateTable\_UserAccount.sql を開いて実行します。



「コマンドは正常に完了しました。」と表示されている事を確認します。

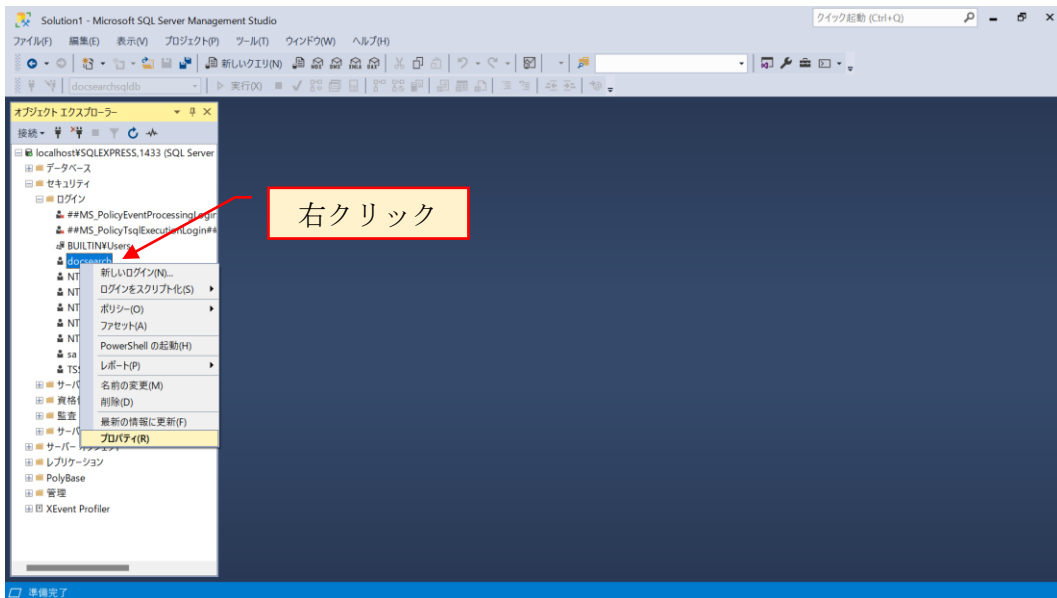
データベース > docsearchsqldb > テーブルを展開して、下記のテーブルが存在している事を確認します。



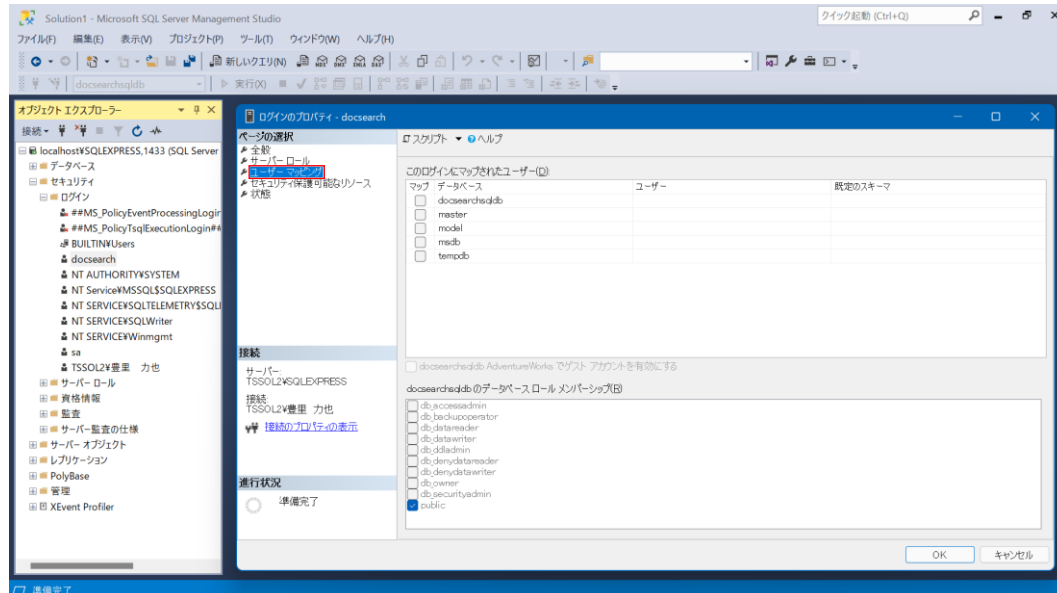
- データベース
  - システム データベース
  - データベース スナップショット
  - docsearchsqldb
    - データベース ダイアグラム
    - テーブル
      - システム テーブル
      - FileTables
      - 外部テーブル
      - グラフ テーブル
      - dbo.tbl\_DocRegdb
      - dbo.tbl\_UserAccount

## 6.7 データベースユーザを作成する

セキュリティ>ログイン>docsearch を選択し右クリックでプロパティを表示します。



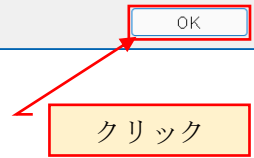
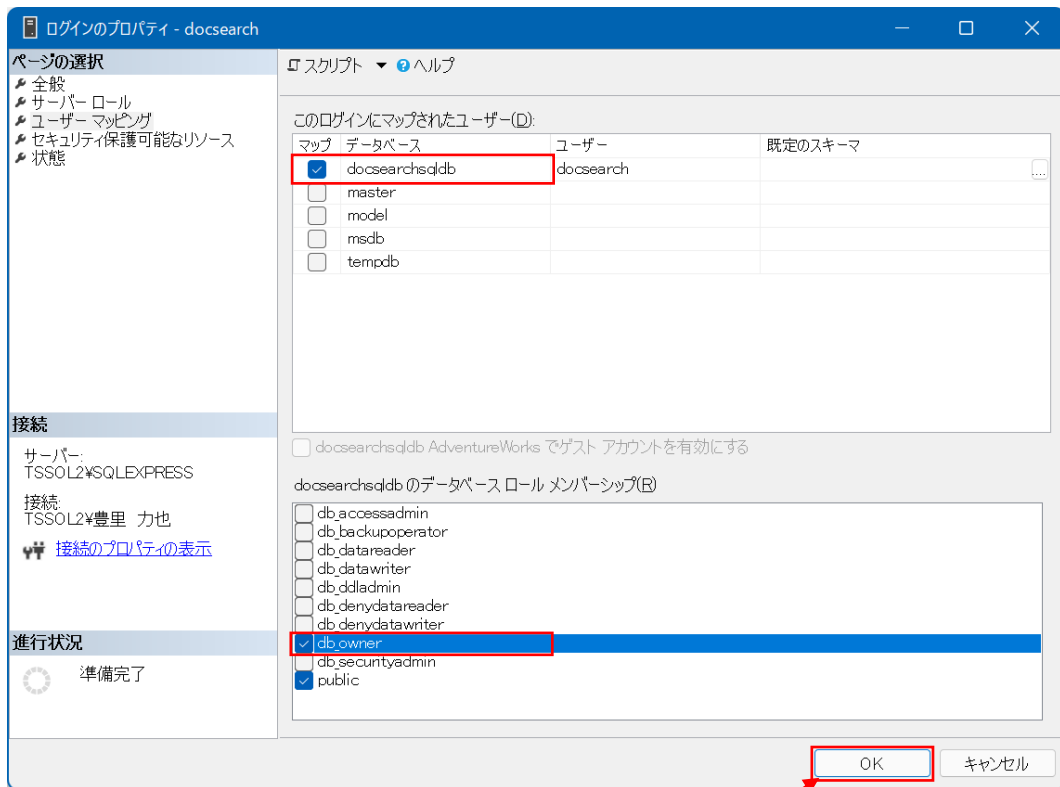
### ユーザマッピングを選択



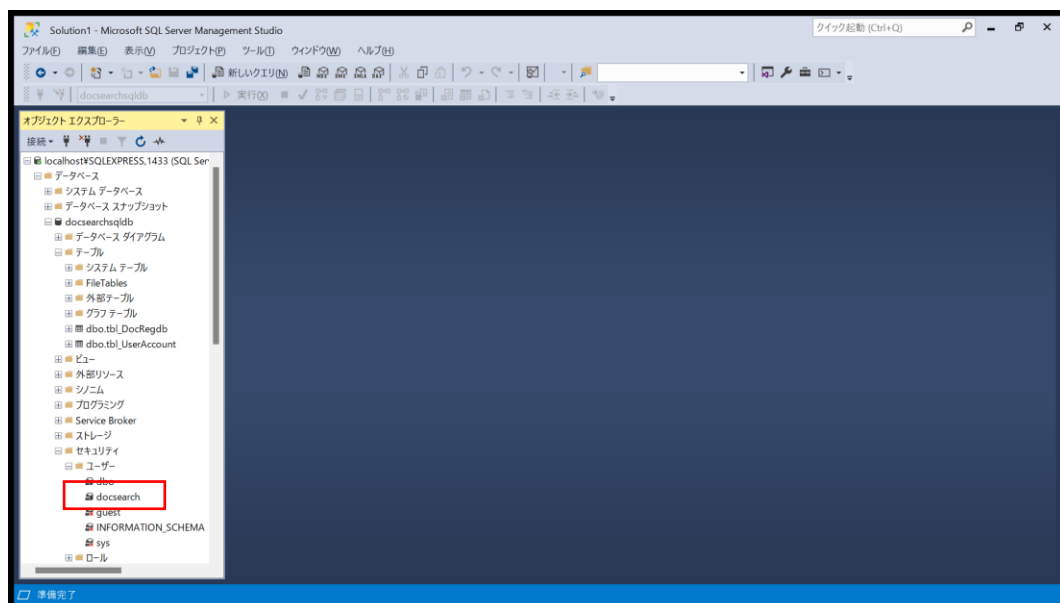
### ページの選択

- 全般
- サーバーロール
- ユーザーマッピング
- セキュリティ保護可能なリソース
- 状態

docsearchsqldb にチェックを入れて、データベースロールメンバシップの db\_owner にチェックを入れます。



データベース > docsearchsqldb > セキュリティ > ユーザーに docsearch が作成されていることを確認します。

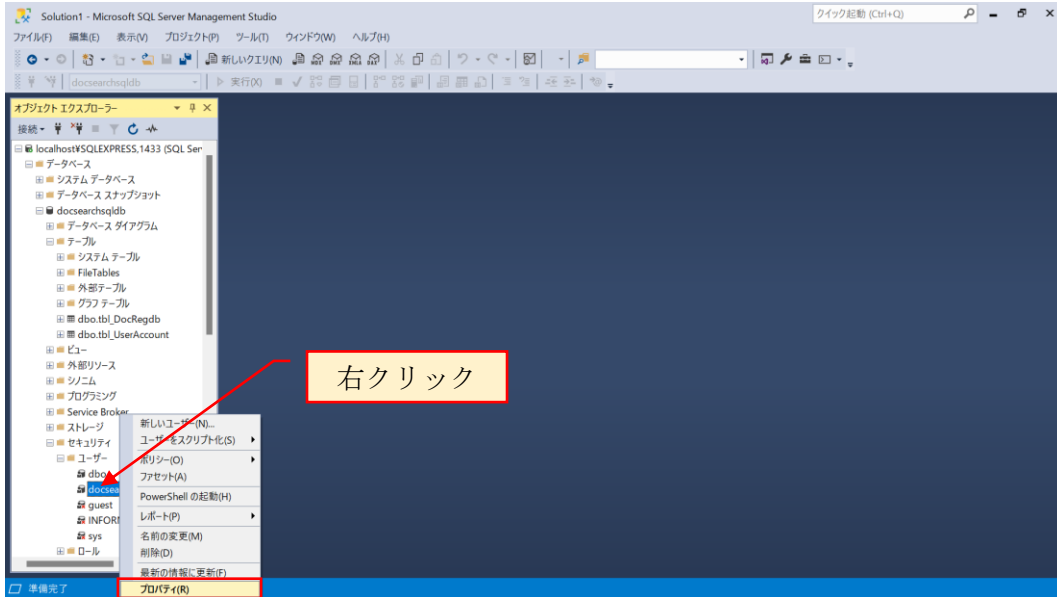




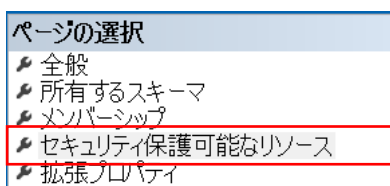
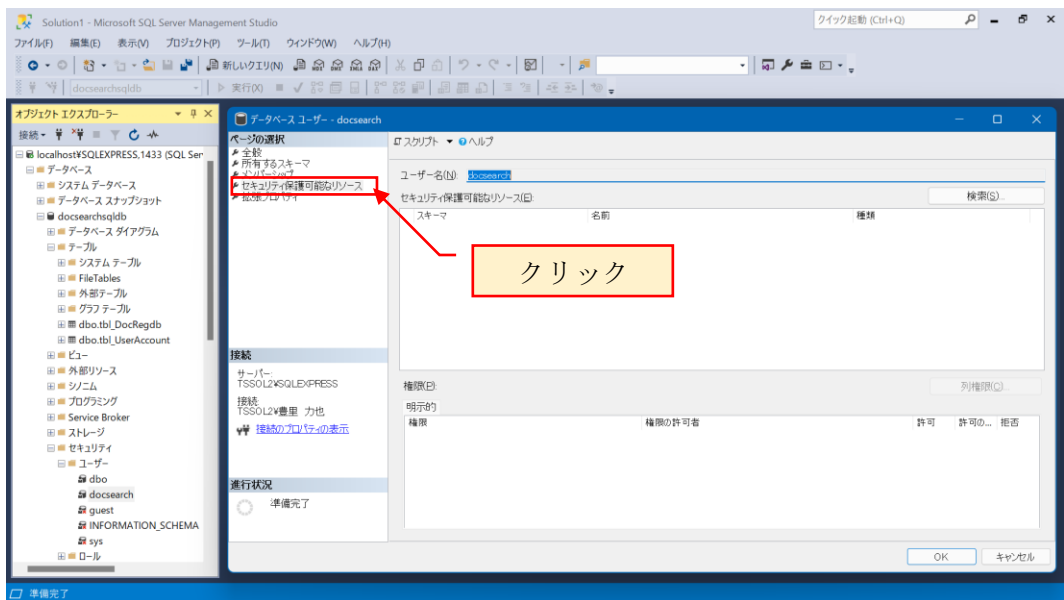
## 6.8 セキュリティ可能なリソースを設定する

データベース>Docsearchsqlldb を展開

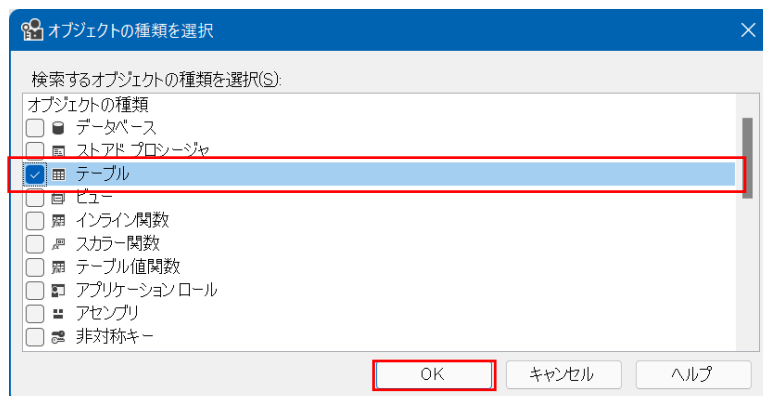
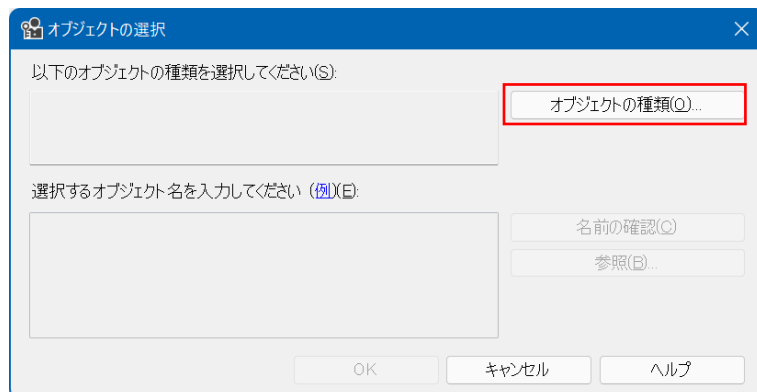
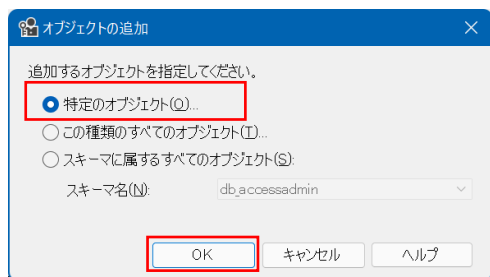
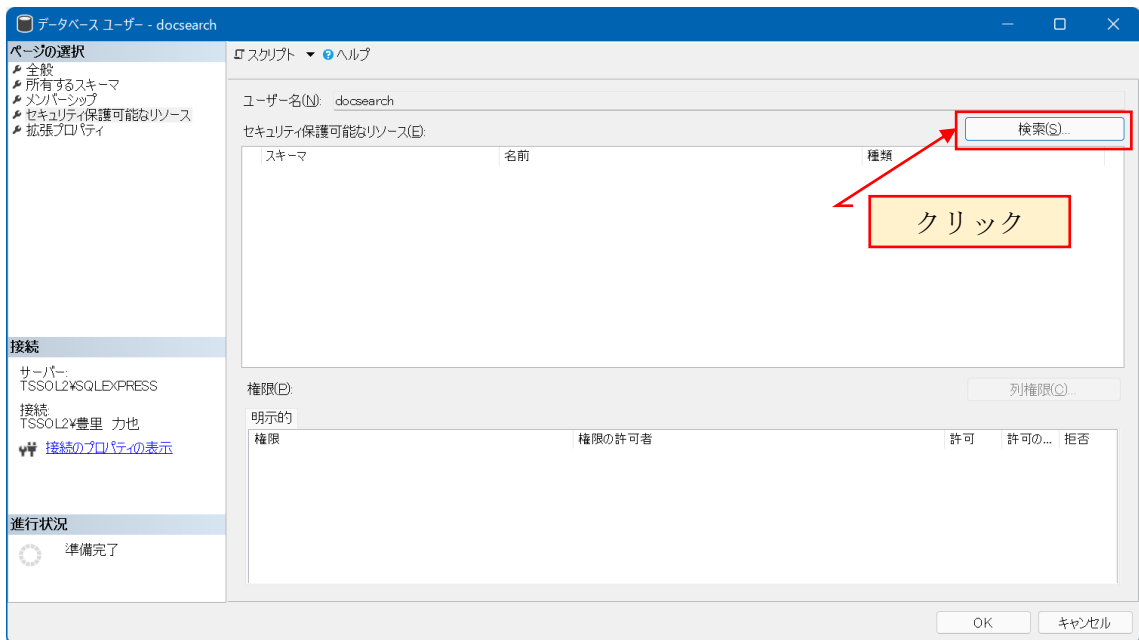
Docsearchsqlldb>セキュリティ>ユーザ>docsearch を選択してプロパティを表示します。

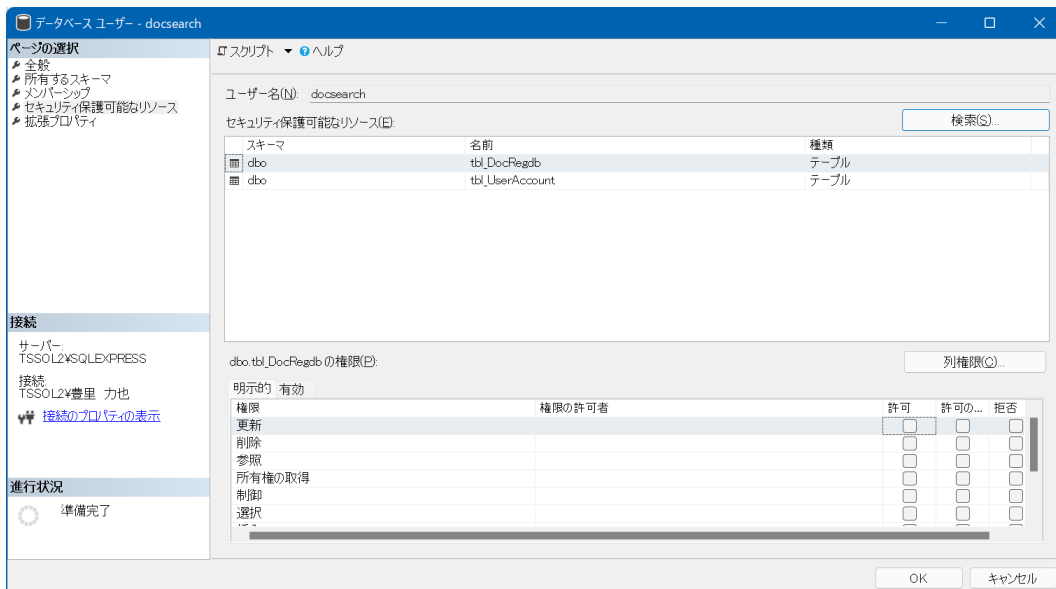
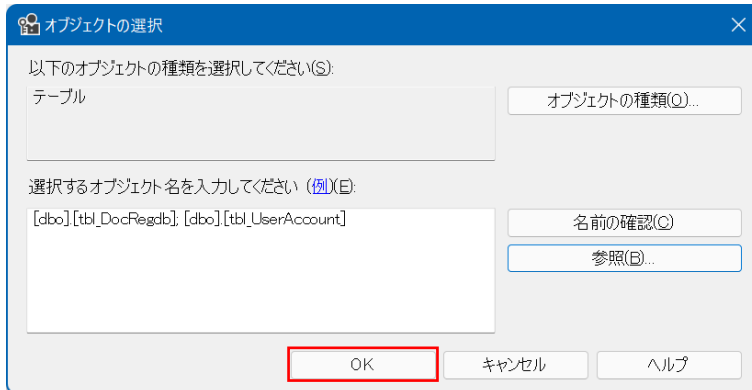
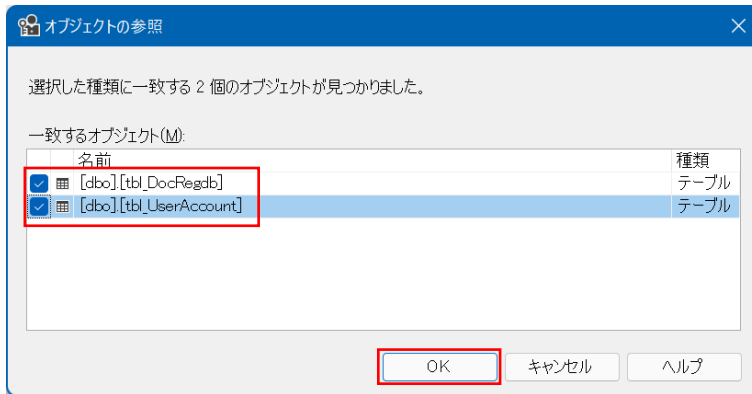
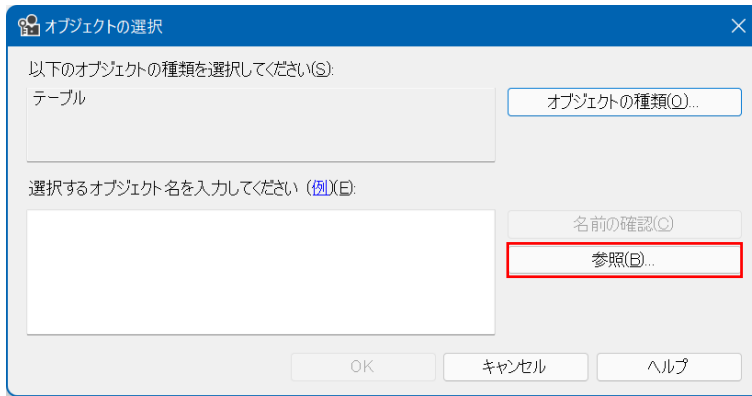


セキュリティ保護可能なリソースを選択します。

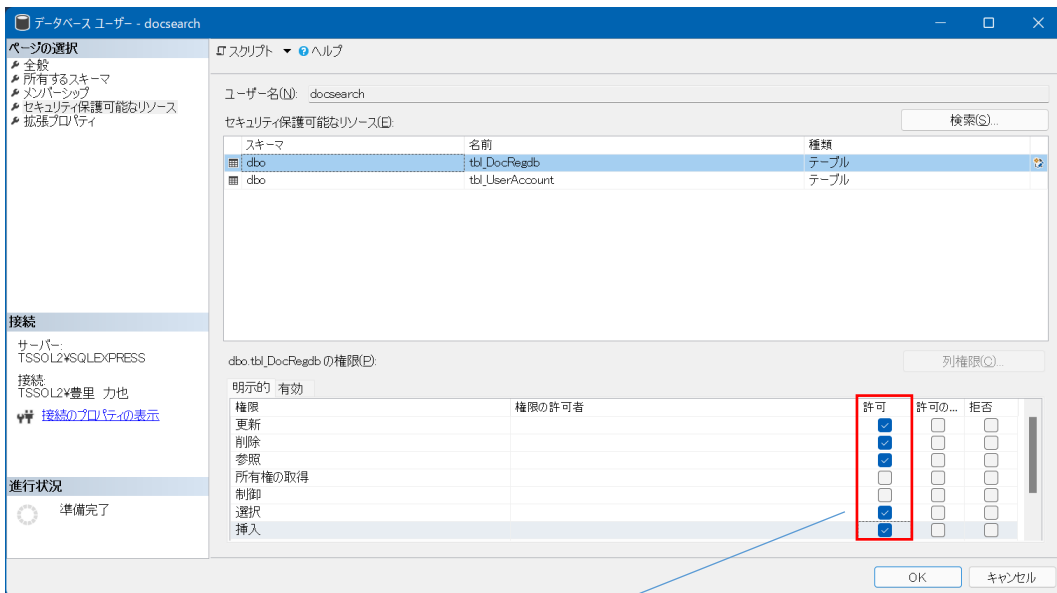


セキュリティ可能なリソースの「検索」をクリックします。



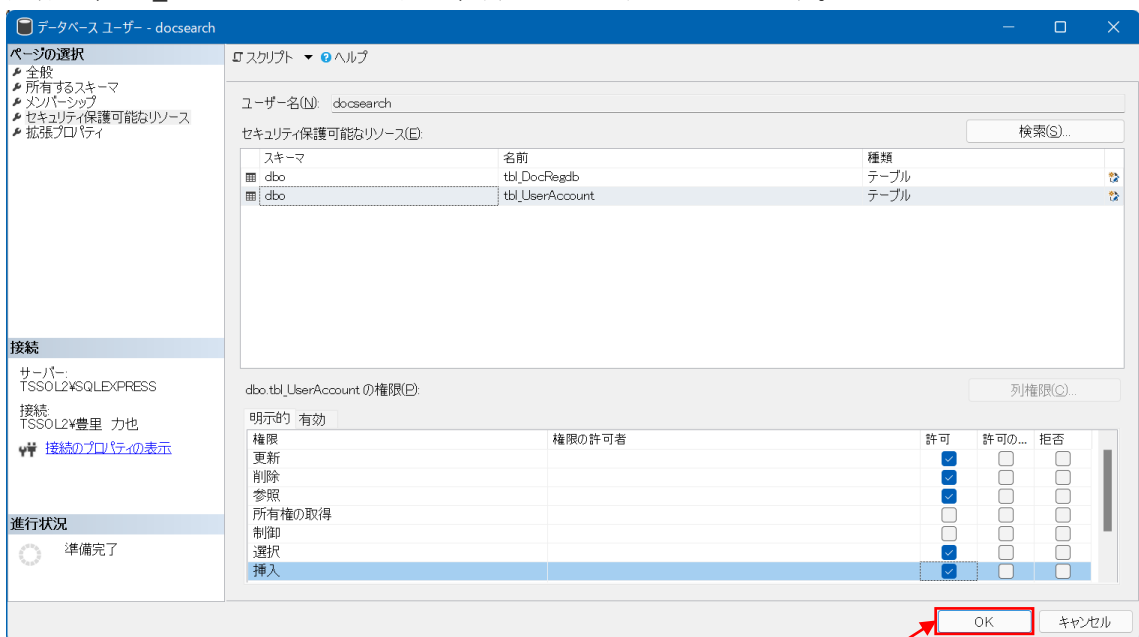


tbl\_DocRegdb を選択し、下記の許可をチェックします。



権限	許可
更新	<input checked="" type="checkbox"/>
削除	<input checked="" type="checkbox"/>
参照	<input checked="" type="checkbox"/>
所有権の取得	<input type="checkbox"/>
制御	<input type="checkbox"/>
選択	<input checked="" type="checkbox"/>
挿入	<input checked="" type="checkbox"/>

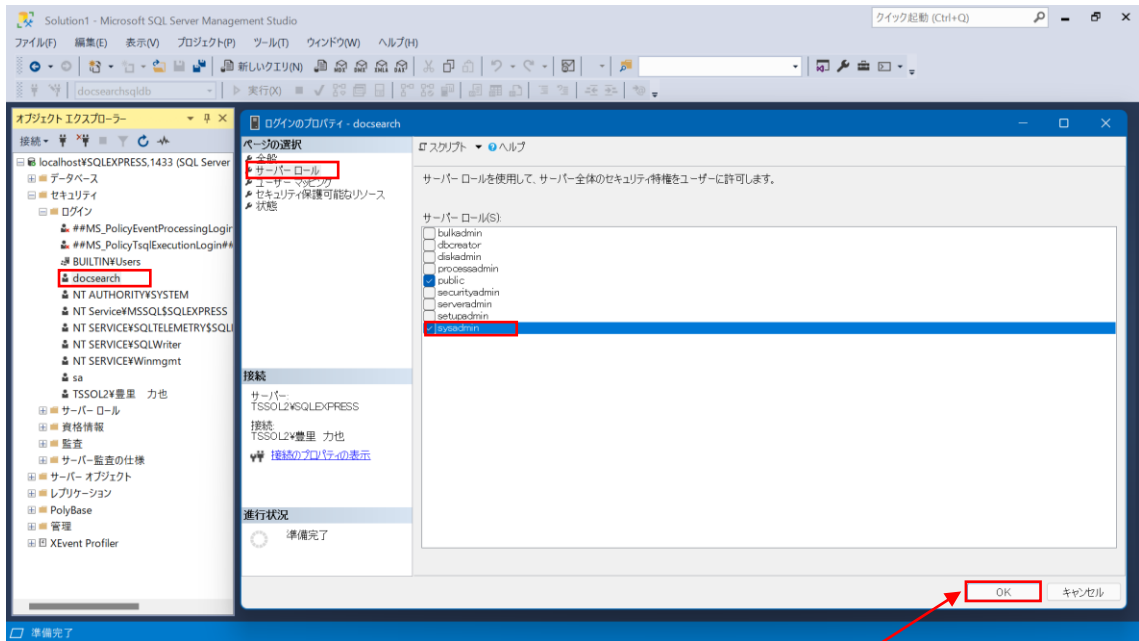
同様に、tbl\_UserAccount を選択し、許可のチェックを入れます。



クリック

## 6.9 データベースユーザに、sysadmin ロールを付与する

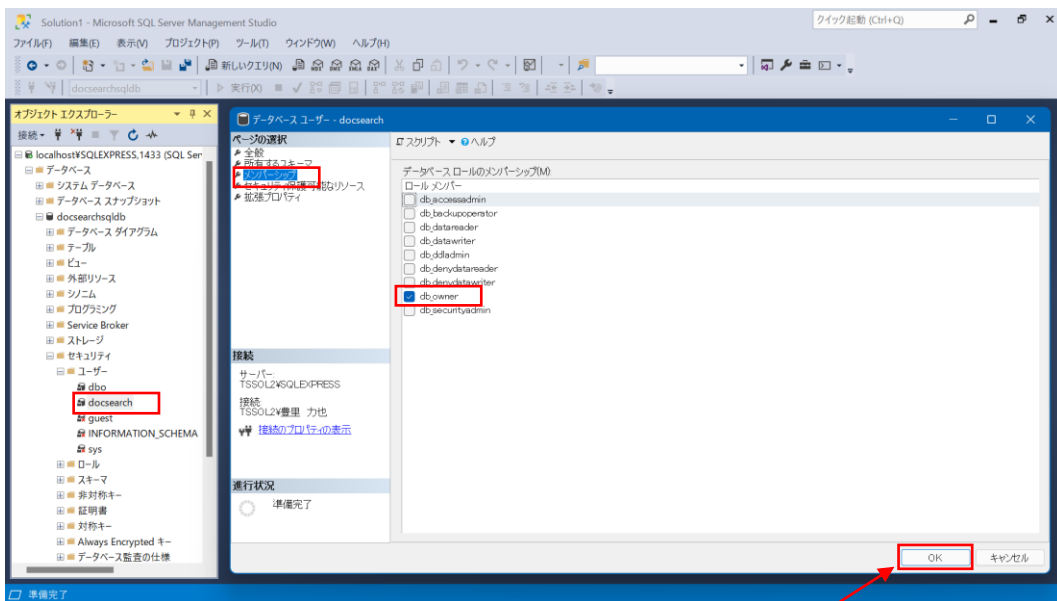
セキュリティ>ログイン>docsearch を選択し右クリックでプロパティを表示  
サーバロール > sysadmin にチェックを入れます。



クリック

データベース>Docsearchsqldb>セキュリティ>docsearch のプロパティを表示し、  
メンバーシップを選択

ロールメンバーとして db\_owner にチェックがあることを確認します。



クリック

以上で、SQLServer の各種設定は終了です。

## 7. ユーザ管理情報テーブルにシステム管理者のユーザを登録する

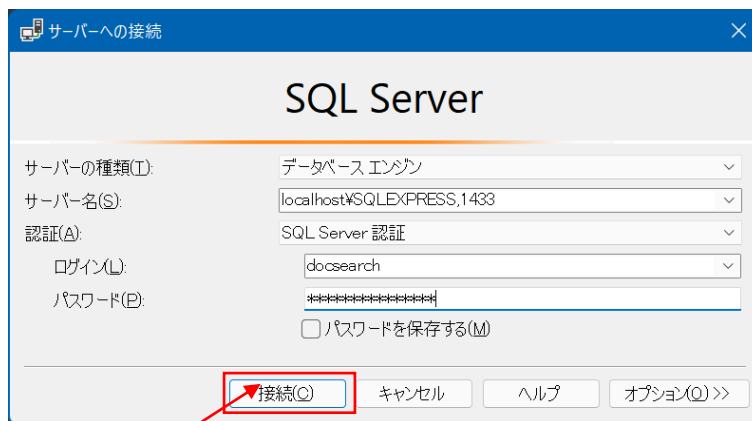
らくらくドキュメントサーチでインストール後の各種設定作業を行う上で、システム管理者用のアカウント `admin` を登録しておく必要があります。

先に、SQL Server の設定で、問題なく設定が行われているか確認も含めて、SQL Management Studio を使用して、利用者管理情報テーブル `tbl_UserAccount` にユーザ ID `admin` を登録します。

以下、その手順を説明します。

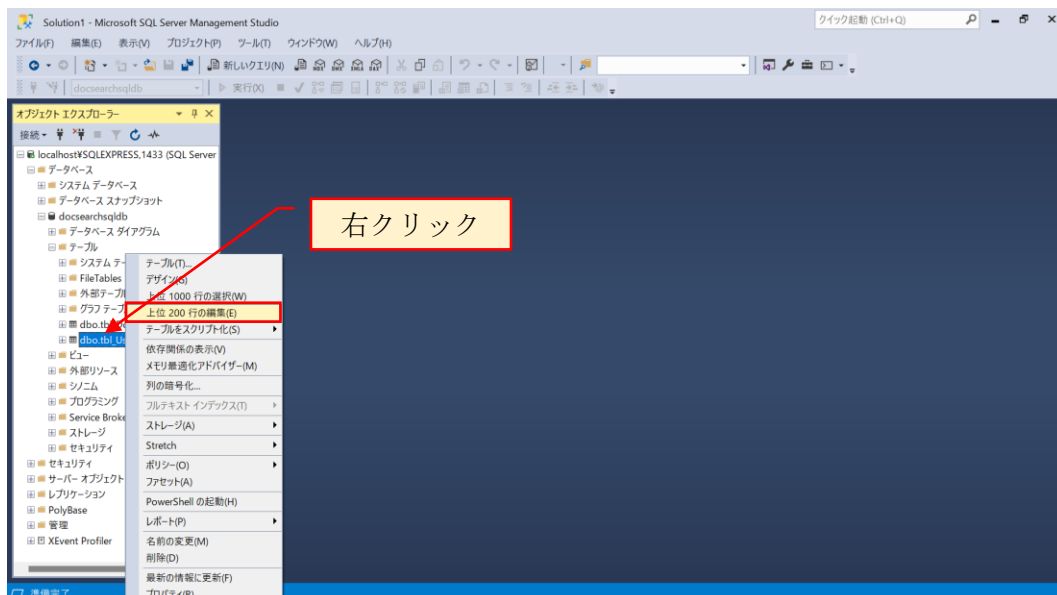
SQL Server 認証の `docsearch` でログインし直します。

パスワードは、`docsearch!admin`

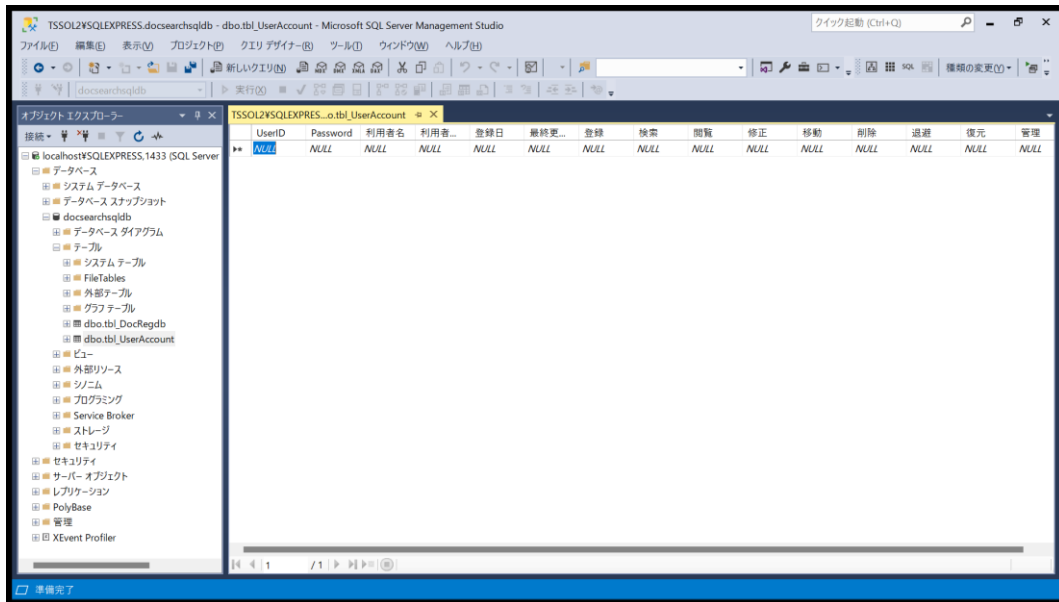


クリック

データベース > Docsearchsqlldb > テーブル > `dbo.tbl_UserAccount` を選択し、右クリックして「上位 200 行の編集」をクリックします。



右クリック



上位 200 行の編集をクリックし、各列に以下の情報を入力し最後に **Enter** キーを押下します。

登録する情報は下記の通り。

UserID : admin

Password : OZfXY (OZfXY はパスワード admin に対する暗号化された文字列  
f のみ小文字)

利用者名 : システム管理者

利用者資格 : システム管理者

登録日 : yyyy/mm/dd の形式で入力 入力例 : 2022/04/01

最終更新日時 : yyyy/mm/dd HH:MM:SS の形式で入力 HH:MM:SS は時刻

入力例 : 2022/04/01 13:00:00 (日付と時刻の間は 1 個の半角スペース)

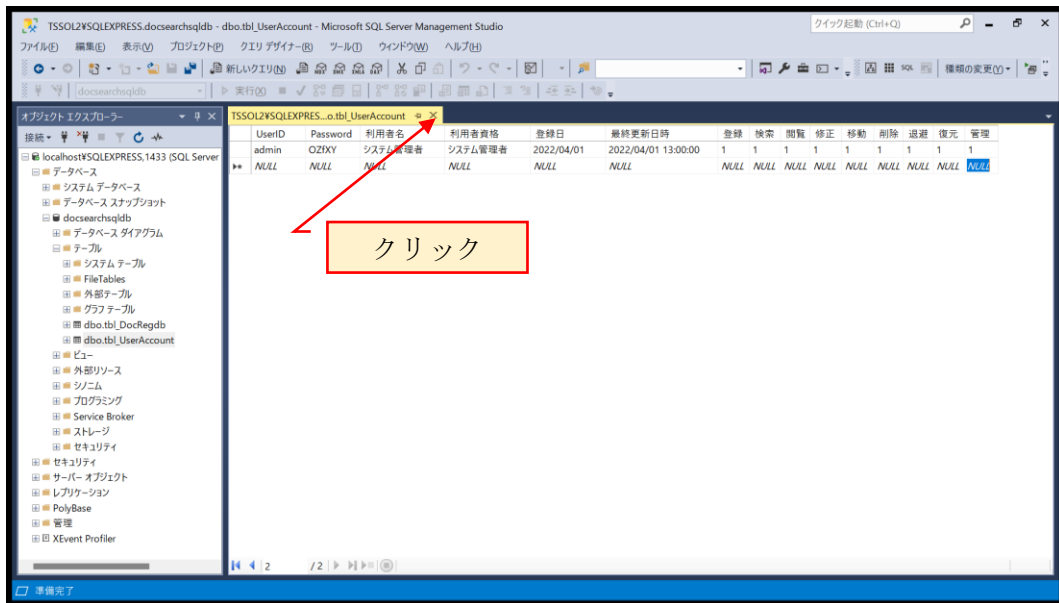
登録、検索、閲覧、修正、移動、削除、退避、復元、管理の全ての権限を与えるため半角の数字 1 を入力します。

実際の入力例を以下に示します。

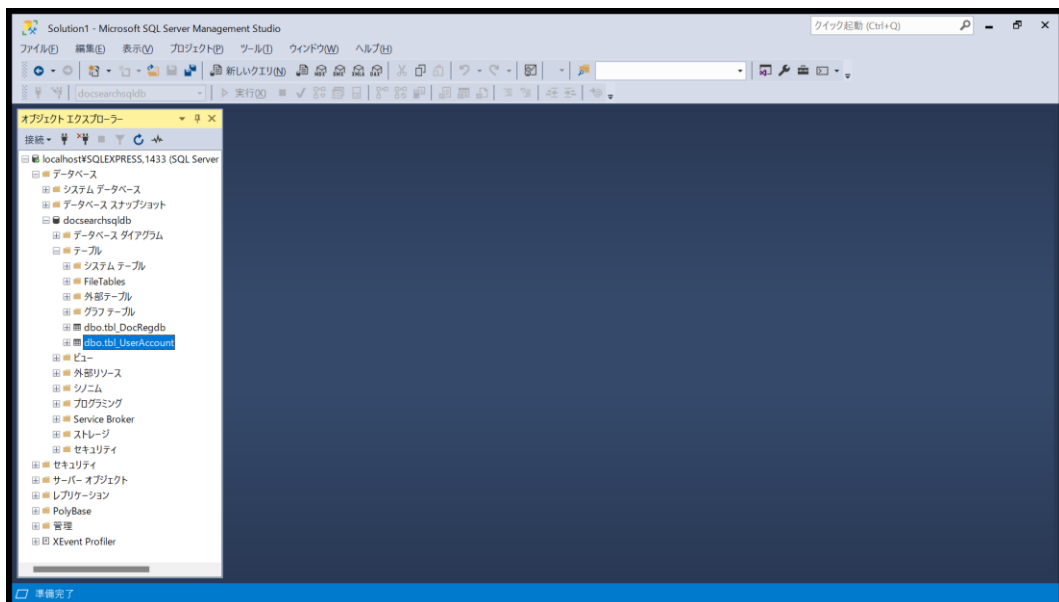
UserID	Password	利用者名	利用者資格	登録日	最終更新日時	登録	検索	閲覧	修正	移動	削除	退避	復元	管理
admin	OZfXY	システム管理者	システム管理者	2022/04/01	2022/04/01 13:00:00	1	1	1	1	1	1	1	1	1
NULL	NULL	NULL	NULL	NULL	NULL	NULL	NULL	NULL	NULL	NULL	NULL	NULL	NULL	NULL

admin の全ての行を入力したら、「管理」の列で **Enter** を押下して確定します。

## 入力された内容



確認後、編集タブを×で閉じます。



SQL Server Management Studio を終了します。

SQL Server Management Studio の終了は、ウィンドウの閉じるボタン (×) か、メニューバーのファイル > 終了 のどちらでも構いません。



## 8. テーブル仕様

らくらくドキュメントサーチで使用するテーブルデザインについて以下に記載します。  
SQL Management Studio を起動し、SQL Server 認証でログインします。

オブジェクトエクスプローラからデータベースを展開し、テーブルを選択します。  
テーブルデザイン仕様を表示するには、各テーブルを選択した状態で右クリックし  
「デザイン」をクリックすると表示されます。

以下、テーブルデザインの内容を記載します。

### 一般文書（契約書）検索データ：tbl\_DocRegdb

列名	データ型	NULLを許容
tbl_TimeStamp	nvarchar(20)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_DocKind	nvarchar(50)	<input type="checkbox"/>
tbl_登録者	nvarchar(50)	<input type="checkbox"/>
tbl_アクセス権	nvarchar(50)	<input type="checkbox"/>
tbl_保存期限	nvarchar(20)	<input type="checkbox"/>
tbl_KeyItem1	nvarchar(255)	<input type="checkbox"/>
tbl_KeyItem2	nvarchar(255)	<input type="checkbox"/>
tbl_KeyItem3	nvarchar(255)	<input type="checkbox"/>
tbl_KeyItem4	nvarchar(255)	<input type="checkbox"/>
tbl_KeyItem5	nvarchar(255)	<input type="checkbox"/>
tbl_KeyItem6	nvarchar(255)	<input type="checkbox"/>
tbl_KeyItem7	nvarchar(255)	<input type="checkbox"/>
tbl_KeyItem8	nvarchar(255)	<input type="checkbox"/>
tbl_regfilepath	nvarchar(255)	<input type="checkbox"/>

### 利用者情報テーブル：tbl\_UserAccount

列名	データ型	NULLを許容
UserID	varchar(20)	<input type="checkbox"/>
Password	varchar(20)	<input checked="" type="checkbox"/>
利用者名	nvarchar(50)	<input type="checkbox"/>
利用者資格	nvarchar(50)	<input type="checkbox"/>
登録日	varchar(10)	<input type="checkbox"/>
最終更新日時	varchar(50)	<input type="checkbox"/>
登録	char(1)	<input type="checkbox"/>
検索	char(1)	<input type="checkbox"/>
閲覧	char(1)	<input type="checkbox"/>
修正	char(1)	<input type="checkbox"/>
移動	char(1)	<input type="checkbox"/>
削除	char(1)	<input type="checkbox"/>
退避	char(1)	<input type="checkbox"/>
復元	char(1)	<input type="checkbox"/>
管理	char(1)	<input type="checkbox"/>

## 9. 添付資料

### 9.1 検索キーデータテーブル作成用 SQL コマンド

sql コマンドファイル名 : CreateTable\_DocRegDB.sql

```
USE [docsearchsqlldb]
GO
```

```
/****** Object: Table [dbo].[tbl_DocRegdb] Script Date: 2022/04/02 12:10:44
*****/
```

```
SET ANSI_NULLS ON
GO
```

```
SET QUOTED_IDENTIFIER ON
GO
```

```
CREATE TABLE [dbo].[tbl_DocRegdb](
    [tbl_TimeStamp] [nvarchar](20) NULL,
    [tbl_DocKind] [nvarchar](50) NULL,
    [tbl_登録者] [nvarchar](50) NULL,
    [tbl_アクセス権] [nvarchar](50) NULL,
    [tbl_保存期限] [nvarchar](20) NULL,
    [tbl_KeyItem1] [nvarchar](255) NULL,
    [tbl_KeyItem2] [nvarchar](255) NULL,
    [tbl_KeyItem3] [nvarchar](255) NULL,
    [tbl_KeyItem4] [nvarchar](255) NULL,
    [tbl_KeyItem5] [nvarchar](255) NULL,
    [tbl_KeyItem6] [nvarchar](255) NULL,
    [tbl_KeyItem7] [nvarchar](255) NULL,
    [tbl_KeyItem8] [nvarchar](255) NULL,
    [tbl_regfilepath] [nvarchar](255) NULL
) ON [PRIMARY]
GO
```

## 9.2 利用者情報テーブル作成用 SQL コマンド

```
USE [docsearchsqlldb]
GO
```

```
/****** Object: Table [dbo].[tbl_UserAccount] Script Date: 2022/04/02 12:11:29
*****/
```

```
SET ANSI_NULLS ON
GO
```

```
SET QUOTED_IDENTIFIER ON
GO
```

```
CREATE TABLE [dbo].[tbl_UserAccount](
    [UserID] [varchar](20) NOT NULL,
    [Password] [varchar](20) NULL,
    [利用者名] [nvarchar](50) NULL,
    [利用者資格] [nvarchar](50) NULL,
    [登録日] [varchar](10) NULL,
    [最終更新日時] [varchar](50) NULL,
    [登録] [char](1) NULL,
    [検索] [char](1) NULL,
    [閲覧] [char](1) NULL,
    [修正] [char](1) NULL,
    [移動] [char](1) NULL,
    [削除] [char](1) NULL,
    [退避] [char](1) NULL,
    [復元] [char](1) NULL,
    [管理] [char](1) NULL
) ON [PRIMARY]
GO
```

以上